

2025

履修ガイド

薬学部



新潟薬科大学

Niigata University of Pharmacy and Medical and Life Sciences

目 次

新潟薬科大学の理念	1
薬学部の教育目標及び方針（ポリシー）	1
薬学部学年暦	4

履修の手引

・ 学習にあたって	5
・ 授業科目の履修	9

諸 規 程

・ 新潟薬科大学薬学部授業科目履修規程	17
・ 新潟薬科大学薬学部進級基準	47
・ 新潟薬科大学薬学部受験心得	49
・ 新潟薬科大学薬学部GPA 制度及びCAP 制に関する取扱要項	50

資 料

・ カリキュラムマップ、カリキュラムツリー	53
-----------------------------	----

新潟薬科大学の理念

生命の尊厳に基づき、医療科学及び生命科学分野の教育と研究を通して、人々の健康の増進、環境の保全、国際交流や地域社会の発展に貢献する高い専門性と豊かな人間性を有する有為な人材の育成とともに、社会の進歩と文化の高揚に有益な研究成果の創出を理念とする。

薬学部の教育目標及び方針（ポリシー）

【教育研究上の目的】

薬学部は、国民に信頼され、医療に貢献できる高度な薬学を修め、医療人たる崇高な倫理観と豊かな人間性をもち、地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上に貢献するとともに医療の進展に資する研究心を有する薬剤師を育成することを目的とする。

（2021年度入学生から）

薬学部は、「実学一体」の精神のもと、薬学に係る専門知識を習得し、医療人に適う倫理観と豊かな人間性をもち、問題解決能力と実践力を身に付け、医療の進展に資する研究心を有し、地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上に貢献する薬剤師を育成することを目的とする。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

次のような能力を身に付け、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

1. 医療人たる崇高な倫理観と豊かな人間性をもち、医療に携わる使命感を有していること
2. 医薬品を理解し、適正使用の礎となる科学力を有していること
3. 医療福祉連携を推し進め、地域における人々の健康自立を支援する全人的能力（科学力・臨床力・対人力）を有していること
4. 医療や福祉を取り巻く様々な課題に気づき、解決に導く論理的・科学的能力を有していること
5. 最新の医療情報の収集等、自己研鑽に努め、生涯にわたって学修する態度・習慣を身に付けていること

（2021年度入学生から）

人々の健康で自立した生活を支援し、地域社会に貢献できる薬剤師を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備えた者に「学士（薬学）」の学位を授与する。

1. プロフェッショナリズム
 - ・患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、薬剤師として医療を担うための責任感と倫理観をもって行動できる。
 - ・自らの能力を評価・検証し、生涯学習により常に自己研鑽を図ることができる。
 - ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。

2. コミュニケーション力
 - ・他者との間で適切に情報の収集・伝達を行うとともに、互いの立場を尊重し、理解し合える人間関係を構築できる。
3. 薬学関連領域の知識・技能・態度
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、薬学の専門的知識・技能・態度を修得する。
4. 薬物療法における実践力
 - ・患者の病態を理解し、科学的な根拠に基づき、患者個人を尊重した適切で効果的な薬物療法を選択・計画し、安全かつ適確に遂行できる。
5. 問題発見・解決力
 - ・科学的探究心を備え、基礎、衛生、医療薬学に関わる諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
6. 地域の保健・医療における貢献力
 - ・医療福祉連携の重要性を理解し、プライマリケアやセルフメディケーションの支援、在宅医療への参画等を通じ、地域における人々の疾病予防、健康・自立に貢献できる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

学位授与に要求される能力修得のために、次のような方針でカリキュラムを編成する。

1. 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基盤とし、基礎薬学から衛生薬学、医療薬学、臨床薬学に至るまで、学年進行とともに深化するような学習到達目標を設定する。
2. 医療人たる倫理観と豊かな人間性の涵養を促す科目を配置する。
3. 医薬品を理解し、適正使用の礎となるような科学を学修する薬学専門科目を配置する。
4. 人々の健康自立を支援する上で必要な応用科学力や臨床力を修得する総合型授業科目を配置する。
5. 問題発見・問題解決能力を修得する科目を配置する。
6. 医療福祉連携を推し進め、地域における人々の健康自立を支援するための対人力を涵養する実践的科目を配置する。
7. 対人力涵養の要となる幅広い視野を育成するための教養系科目を配置する。

（2021年度入学生から）

薬学部では、学修内容をもとに、修学期間を1学年、2学年、3学年から4学年、5学年から6学年の4期に分け、各期において重視する目標を設定し、それらの段階的な達成により本学が目指す薬剤師への成長を促すカリキュラムを編成する。

第1期で重視する目標：「能動的学習による汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識を習得し、主体的学習方法を用いて、倫理観及び本学薬学教育カリキュラムを履修していく上で基本的に必要な汎用的能力（コミュニケーション力、問題発見力及び論理的思考力）を培う。また、地域住民の健康・自立に貢献する社会連携教育等を通して、地域貢献に必要な基礎的知識の習得及び情報収集力の向上を図る。

第2期で重視する目標：「基礎薬学の学習及び医療人としての心構え」

基礎薬学の授業科目を講義形式で開講するのと並行に、演習・実習を実施し、知識の定着を図る。さらに、患者や他職種との交流を通して、自らが一医療人となることを意識させ、そのために求められる態度及び問題解決力を涵養する。また、地域住民の健康・自立に貢献する社会連携教育等を通して、第1期で培った知識及び情報収集力を結集させるとともに地域貢献に必要な人間性を育成する。

第3期で重視する目標：「臨床薬学の学習及び知識・技能・態度の統合」

臨床薬学の授業科目を講義・実習形式で開講するのと並行に、主体的学習方法による演習を実施し、基礎

薬学の領域を含めた知識・技能・態度を統合させ、薬物療法に必要な人間性及びより専門的な問題解決力を育成する。また、これまでに培った知識・技能・態度と社会連携教育等を通して得た経験を統合させ、他学年の学生との協同により地域貢献・後進指導に必要な人間性を深化させる。

第4期で重視する目標：「臨床実務の実践及び課題研究による自己研鑽意識の醸成」

薬学共用試験（CBT・OSCE）において知識・技能・態度の評価を受けた後、患者・来局者への応対及び薬剤師に関わる医療業務を経験する臨床実務実習により、臨床における総合的实践力を涵養する。さらに、実務実習での経験をより深化させるために主体的学習方法による演習を実施するのと並行に、薬学の進歩に寄与すべく自ら情報収集、問題発見及び問題解決を行う卒業研究により、これまでに培った知識・技能・態度の総合的な実践力を育成する。また、これまでの社会連携教育等を通して培った人間性を基盤にして、地域の保健・医療における課題の検証を行い、地域住民に還元することで地域貢献に資する実践力を育成する。これらの総合的实践力育成過程において、自らの能力を評価検証し、自己研鑽する意志を醸成する。

本学薬学教育課程において、根幹をなす学修成果であるプロフェッショナリズムとは、薬剤師が備えるべき行動規範であり、その行動規範に則り様々な局面に応じて問題を解決しようとする意志である。低学年から高学年に向けて、汎用的問題解決力からより高い専門性が求められる臨床的实践力へと発展させるとともに、倫理観と後進指導等を通して自己成長する力を醸成する。それらの学修成果をポートフォリオとして積み重ねながら、各期におけるパフォーマンス評価を用いた形成的評価により学位授与の方針への達成度を判定し、学位授与の質を保証する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識並びに地域貢献に必要な基礎的知識については、客観試験や論述試験等を用いる。基本的なコミュニケーション力、情報収集・問題発見力、倫理観については、関連する領域科目のパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等を用いる。それぞれの学修成果を学位授与の方針に示す資質・能力と照合し、達成度を判断する。

第2期

基礎薬学に関する知識の定着については、客観試験や論述試験等を用いる。相手を尊重するコミュニケーション力、問題発見・解決力、倫理観及び人間性の会得については、関連する領域科目のパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等を用いる。それぞれの学修成果を学位授与の方針に示す資質・能力と照合し、達成度を判断する。

第3期

基礎薬学を含めた臨床薬学に関する知識については、客観試験や論述試験等を用いる。臨床薬学並びに地域への貢献にかかわる問題発見・解決力、倫理観及び人間性の会得については、関連する領域科目のパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等を用いる。それぞれの学修成果を学位授与の方針に示す資質・能力と照合し、達成度を判断する。

第4期

薬物療法及び地域貢献の実践力については、臨床実務実習のパフォーマンス評価を用いる。臨床薬学における総合的な実践力については、それを涵養するための科目のパフォーマンス評価等を用いる。問題発見・解決力については、研究課題に取り組む卒業研究のパフォーマンス評価を用いる。それぞれの学修成果を学位授与の方針に示す資質・能力と照合し、達成度を判断する。

2025年度 薬学部学年暦

#:行事日、◎:定期試験、○:追再試験、●:共用試験関係

一:振替授業日、*:祝日、○内の数字:学年、●内の数字:各曜日の授業週

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
4				1	2	3	#4	4:7:新入生オリエンテーション 5:入学式 8:前期授業開始 12:新入生歓迎会 29:昭和の日
	6	#7	8 ●	9 ●	10 ●	11 ●	#12	
	13	14 ●	15 ●	16 ●	17 ●	18 ●	19	
	20	21 ●	22 ●	23 ●	24 ●	25 ●	26	
	27	28 ●	*29	30 ●				
5					1 ●	2 ●	*3	3:憲法記念日 4:みどりの日 5:こどもの日 6:振替休日 8(木):月曜授業 9(金):火曜授業 2/17-4:⑤臨床実務実習(第Ⅰ期) 19-8/3:⑤臨床実務実習(第Ⅱ期)
	*4	*5	*6	7 ●	(月) ●	(火) ●	10	
	11	12 ●	13 ●	14 ●	15 ●	16 ●	17	
	18	19 ●	20 ●	21 ●	22 ●	23 ●	24	
	25	26 ●	27 ●	28 ●	29 ●	30 ●	31	
6	1	2 ●	3 ●	4 ●	5 ●	6 ●	7	13:⑤前期授業終了 14:開学記念日 16-18:6年次科目定期試験期間 25:6年次科目定期試験成績開示 30-7/1:6年次科目追再試験期間
	8	9 ●	10 ●	11 ●	12 ●	13 ●	#14	
	15	◎16 ●	◎17 ●	◎18 ●	19 ●	20 ●	21	
	22	23 ●	24 ●	#25 ●	26 ●	27 ●	28	
	29	○30 ●						
7			○1 ●	2 ●	3 ●	#4 ●	5	4:6年次科目追再試験成績開示 21:海の日 23(水):月曜授業 25:前期授業終了 24-8/8:薬学部1～4年次授業科目定期試験期間
	6	7 ●	8 ●	9 ●	10 ●	11 ●	12	
	13	14 ●	15 ●	16 ●	17 ●	18 ●	19	
	20	*21	22 ●	(月) ●	◎23 ●	◎24 ●	26	
	27	◎28	◎29	◎30	◎31			
8						◎1	2	10-19:大学夏季休業 11:山の日 19-11/2:⑤臨床実務実習(第Ⅲ期) 25:1～4年次前期成績開示 28-9/9:1～3年次科目追再試験期間 29-9/3:4年次科目追再試験期間
	3	◎4	◎5	◎6	◎7	◎8	9	
	10	*11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	#25	26	27	○28	○29	30	
9			○1	○2	○3	○●4	#○5	4:④CBT体験受験講習会(予定) 5:4年次科目追再試験成績開示 9:④⑤4-6年次科目2回目再試験 9-10:④CBT体験受験(予定) 15:敬老の日 22:前期最終成績開示 23:秋分の日 26:後期授業開始
	7	○8	○●9	●10	11	12	13	
	14	*15	16	17	18	19	20	
	21	#22	*23	24	25	26 ●	27	
	28	29 ●	30 ●					

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定
10				1 ●	#2 ●	3 ●	4	2:防災訓練 10:休講 11-12:新築祭 13:スポーツの日 18:総合型選抜試験(前期)
	5	6 ●	7 ●	8 ●	9 ●	10	#11	
	#12	*13	14 ●	15 ●	16 ●	17 ●	#18	
	19	20 ●	21 ●	22 ●	23 ●	24 ●	25	
	26	27 ●	28 ●	29 ●	30 ●	31 ●		
11								3:文化の日 4(火):月曜授業 15:学校推薦型選抜試験、特別選抜試験 17-2/8:⑤臨床実務実習(第Ⅳ期) 23:勤労感謝の日 24:振替休日 26(水):月曜授業
	2	*3	(月) ●	4 ●	5 ●	6 ●	7 ●	8
	9	10 ●	11 ●	12 ●	13 ●	14 ●	#15	
	16	17 ●	18 ●	19 ●	20 ●	21 ●	22	
	*23	*24	25 ●	26 (月) ●	27 ●	28 ●	29	
12	30							
		1 ●	2 ●	3 ●	4 ●	5 ●	6	7:④OSCE本試験(予定) 15:④CBT本試験講習会(予定) 17-18:④CBT本試験(予定) 20:学校推薦型選抜試験、総合型選抜試験(後期) 23:12月授業終了 24-1/4:大学年末年始休業
	●7	8 ●	9 ●	10 ●	11 ●	12 ●	13	
	14	●15 ●	16 ●	17 ●	●18 ●	●19 ●	#20	
	21	22 ●	23 ●	24	25	26	27	
1	28	29	30	31				
					*1	2	3	1:元日 5:1月授業再開 12:成人の日 15(木):金曜授業 16:休講 17-18:大学入学共通テスト 27:一般選抜試験(前期) 28:ホワイトコートセレモニー 29:後期授業終了 30:ホワイトコートセレモニー【予備日】 30-2/10:薬学部1～3年次授業科目定期試験期間
	4	5 ●	6 ●	7 ●	8 ●	9 ●	10	
	11	*12	13 ●	14 ●	(金) ●	16	#17	
	#18	19 ●	20 ●	21 ●	22 ●	23 ●	24	
2	25	26 ●	#27	#28 ●	29 ●	#◎30	31	
	1	◎2	◎3	◎4	◎5	◎6	7	11:建国記念の日 14:④OSCE追再試験(予定) 17:1～4年次後期成績開示 19-27:1～3年次科目追再試験期間 23:天皇誕生日 16-5/3:④臨床実務実習(第Ⅰ期)
	8	◎9	◎10	*11	12	13	●14	
	15	16	#17	18	○19	○20	21	
	22	*23	○24	○25	○26	○27	28	
3	1	2	●3	#4	5	6	7	3:④CBT追再試験(予定) 4:一般選抜試験(後期) 11:①～④後期最終成績開示 16:⑤後期最終成績開示 19:卒業式 20:春分の日 3月:薬州・大学研修事業(予定)
	8	9	10	#11	12	13	14	
	15	#16	17	18	#19	*20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					

履 修 の 手 引

学習にあたって

学年と学期

学年は、前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～翌年3月31日）の2期に分かれています(学則第16条)。なお、前期・後期の授業日数を調整するため、前期の終期及び後期の始期を変更する場合があります。学年暦や時間割、ポータルサイト(Portal site)等をしっかりと確認してください。

授業時間

授業は1コマ90分で、次のとおり行います。

- 第1時限 9：00～10：30
- 第2時限 10：40～12：10
- 第3時限 13：10～14：40
- 第4時限 14：50～16：20
- 第5時限 16：30～18：00

教室

授業が実施される教室・実験室等は、教室番号で表示されています（時間割、実習系科目・集中講義科目日程表）。教室番号は学生便覧の「校舎配置図及び教室等案内」を参照してください。

授業科目の区分

本学の授業科目には、次のような区分があります。

1. 履修方法によるもの

必修科目…必ず履修しなければならない科目。
必修科目はクラス指定がされていて、履修しなければならない年次、時期、曜日、時限等が指定されています。

選択必修科目…一定の科目群の中から選択できるが、必ず指定された方法で選択して履修しなければならない科目。一定の科目群から一定の単位を修得する必要があります。

選択科目…一定の科目群の中から自由に選択して履修する科目。

自由科目…卒業要件単位数に含まれない科目。

2. 授業実施時期によるもの

前期科目…前期に授業が行われる科目。

後期科目…後期に授業が行われる科目。

通年科目…一年を通じて授業が行われる科目。

集中講義科目…特別に一定の時期に集中して授業が行われる科目。実施時期は科目により異なる。

その他科目…授業の開始後、終了までに年度をまたいで実施される科目や、複数年かけて履修する科目など。

単位

単位は修学の量を示す基準となるものです。大学における修学は、授業と自主的な学習から成り立ちます。したがって、平素の授業を中心にして、自ら学習する姿勢を養うことが必要です。授業科目について定められた時間数の学習をし、試験などで合格と判定されることにより、単位を修得することになります。

1単位修得に必要な時間数は、授業時間と自学自習時間を合わせて45時間と定められています。さらに、1単位に必要な授業時間は、講義・演習科目では15時間から30時間、実験・実習・実技科目では30時間から45時間と定められています（学則第33条）。

授業計画（シラバス）

「授業計画（シラバス）」は、開講される科目の次の各項目について要点をまとめたものです。サイバーキャンパス（Cyber-Campus）やシラバス検索システムで確認することができます。

- ・授業担当教員
- ・授業概要
- ・実務経験
- ・学修項目（2024年度入学生から）、到達目標（2023年度入学生）
- ・授業計画（各回の授業項目、授業内容、授業方式、授業外学習（予習・復習）、学修目標番号（2024年度入学生から）、到達目標番号、担当教員）
- ・教科書、参考書
- ・成績評価方法、基準
- ・課題に対するフィードバック方法
- ・科目担当連絡先
- ・その他

授業開始前に熟読し、授業開始以降も必要に応じて参照してください。

学習目標

（2024年度以降の入学生向け）

「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」に挙げられた内容を基に、学部ポリシー等との整合性も考慮に入れ、大学独自に体系

的な教育課程を編成しています。

大学における学習では、「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を醸成するために必要となる標準的な学修成果（アウトカム）を卒業時に設定しています。それを達成するために個別の知識や技能を概念的に把握する目標や知識・技能を活用し判断した上で行動する目標が「学修目標」として挙げられています。

(2023年度までの入学生向け)

大学における学習では、各科目を学習した結果として期待される成果を「一般目標（GIO）」として明示しています。シラバスでは「授業概要」欄に記載されています。この一般目標を達成するために、具体的に何ができないか示したものを到達目標（SBOs）と呼びます。本学のカリキュラムは、薬学教育モデルコアカリキュラム（薬学教育モデルコア・カリキュラム（平成25年度改訂））を基に、本学独自の学習目標や到達目標を設定しています。学習目標（一般目標及び到達目標）の詳細は本学のホームページ（<http://www.nupals.ac.jp>）に掲載されています。

予習・復習の励行

授業の内容を効率的に理解するためには、予習・復習を行うことが大切です。大学の授業は予習・復習などの自学自習が前提となっており、授業計画（シラバス）の各科目に、その授業で予習・復習すべき事項等（授業外学習（予習・復習））が指定されています。授業を受ける前に確認して予習をし、授業後には、理解できなかった内容や疑問点について自分で調べたり、担当教員に質問するなどの復習に努めてください。

授業中、授業直後はもちろん、それ以外の時間でも遠慮することなく担当教員に質問にきてください（シラバスのオフィスアワーの項を参照）。

出席の励行

授業は原則として必ず出席しなければなりません（履修規程第3条）。授業担当教員は、各自の工夫で教科書とは違った授業の進め方や、より詳しい説明をすることが多くあります。教員の説明をよく聞き、自身の確実な知識とするように取り組む姿勢が望まれます。各授業での出席確認は、その担当教員が行うのでその指示に従ってください。

出欠管理システム

授業を受講する際に、講義室入口に設置している出席管理端末（以下「端末」）に学生証をかざし、読み込みを行うことで当該授業への出席が登録されます。出欠管理システムに関して、以下の注意事項をよく確認してください。

1. 出席を登録できる時間は、授業開始10分前～授業開始30分後（40分間）までであり、端末に「受付中」と表示されている時間のみとなります。この時間以外は登録できません。

【例】新津キャンパス、1限の場合、8：50～9：30まで。

2. 学生証を忘れた場合や授業に出席していたが登録を失念した場合は、当該授業開始前または終了直後、速やかに当該授業担当教員にその旨申し出てください。

後日申し出があった場合、当該授業の出席が確認できないことがあるので、出席していたとしても出席が認められない可能性があります。したがって必ず授業前後に当該授業担当教員に伝えるようお願いします。

3. 集中講義など、同じ授業を連続コマで受講する場合は、時限ごとに出席を登録してください。

【例】3～5限で同じ講義を受講する場合、3限・4限・5限それぞれ登録する。

4. 授業科目によっては、独自の方法（小テスト、リアクションペーパー等）で出席を確認する場合があります。その場合は、科目担当教員の指示に従ってください。

5. 端末の設置場所は次の講義室です。端末を設置していない教室で授業を実施する場合は登録不要です（科目担当教員が別の方法で出席を確認します）。

【端末設置講義室】

（新津キャンパス）B101～B105、B201～B205、B301～B303、CB201、HB101、J201

（新津駅東キャンパス）NE301～NE304、NE401、NE402

（西新潟中央病院キャンパス）203、204

欠席の届出

欠席した場合は、速やかに欠席の事由を証明する書類を添付し、「欠席届」（事務部設置）を提出してください。忌引き及び届出により大学が適当と認めた場合は、欠席に算入しません（履修規程第3条）。

区分	事 由	証明書類	適用期間
公認欠席・追試験受験に該当する欠席	忌引き	・会葬礼状	事由発生日を1日目として、連続する以下の日数（休日を含む） 父母の喪：7日以内 祖父母・兄弟姉妹の喪：5日以内 その他親族の喪：1日以内
	学校保健安全法施行規則に示されている感染症に罹患した場合	学生便覧（学生相談＞感染症）を参照 ※罹患した感染症によって、証明書類・適用期間が変わります。	
	災害により被災した場合	・被災証明書など公的機関が発行する証明書 ※取得に時間を要する場合は、大学に相談してください。	事由発生から相当の期間
	裁判員制度による場合	・裁判員の職務に従事した期間に関する証明書	裁判所の発行する裁判員の職務に従事した期間
	公共交通機関の遅れによる場合	・遅延証明書	事由発生日
	スポーツなどの大会参加 ※全国大会ならびに北信越大会をはじめとしたブロック大会以上に限る。	・大会要項、パンフレットなど大会出場を確認できる書類	大会に出場する期間（試合日ほか前後日の移動を含む）
上記以外	その他、大学がやむを得ない事情として認めた場合	その事由を証明できる書類	大学が認めた期間
	例： 寝坊 体調不良 公共交通機関以外での遅れ 就職活動 ボランティア活動	特になし	

受講マナー

授業には教員も学生も真剣に取り組んでいます。授業の妨げになる私語、遅刻、授業中の入退室などの行為は厳に慎んでください。また、教室内では携帯電話などの電源は必ず切っておいてください。

休 講

授業担当教員がやむを得ず授業を実施できないことがあります。これを休講といいます。休講の場合は原則として予めポータルサイトに掲示します。連絡なしに授業担当教員が教室に現れないときは、授業開始時間から30分を経過した後「自然休講」となります。この場合、自然休講となった時点で、代表者を決めて事務部教務課まで連絡してください。また、同一の授業科目で休講回数が多いなどの問題があれば、教務課まで申し出てください。

授業の振替と補講

授業担当教員の都合により、他の授業科目と授業時間を振り替えることがあります。また、授業の進度の遅れや休講を補う措置として補講を実施することがあります。いずれもポータルサイトに掲示して連絡します。

成績評価に対する異議申し立て制度

成績評価に対する異議申し立て制度は、成績評価の客観性及び厳格性を確保するため、設けられました。自身の成績評価に疑義がある場合は、以下の手順に従って、確認、異議申立を行うことができます。

- 異議申し立ての対象となるもの
 - 成績の誤記入等、科目担当教員の誤りであると思われる。
 - シラバス等により周知されている成績評価の方法及び基準に照らして、疑義がある。
 - その他（具体的な理由がある）

※以下のような理由は受け付けられません。

- ×科目担当教員に救済措置を求める嘆願。
（この単位がないと進級（卒業）できません。なんとかしてください。）
- ×他の学生との対比上の不満を訴えるもの。
（友人は60点だが、なぜ自分は58点なのか。）
- ×具体的な根拠がなく、その評価になった理由のみを問い合わせるもの。
（自分なりにがんばったと思うのだが、なぜ30点なのか。）

- 異議申し立ての流れ

※フロー図も参照してください。

- 成績評価に対する確認

成績開示日を含め、3日以内（土日祝日、大学休業日を除く）に、「成績評価確認願」を科目担当教員に直接提出してください。また、記入後にコピーを取り、科目担当教員に原本を提出後、コピーを事務部教務課に直接提出してください。

提出受付時に本人確認を行いますので、学生証を持参してください。

非常勤講師担当科目、または、専任教員でも出張等で不在の場合は事務部教務課で受け付けます。

※メールや郵送では受付できません。必ず指定の様式で直接提出してください。

(2) 確認に対する回答

「成績評価確認願」受理後、3日以内（土日祝日、大学休業日を除く）に、科目担当教員からの回答を事務部教務課から返却します。返却時に本人確認を行いますので、学生証を持参してください。

(3) 成績評価に対する異議申し立て

確認結果に対して異議がある場合は、成績評価確認に対する回答受理後、3日以内（土日祝日、大学休業日を除く）に、「成績評価異議申立書」を事務部教務課に直接提出してください。

提出受付時に本人確認を行いますので、学生証を持参してください。

※メールや郵送では受付できません。必ず指定の様式で直接提出してください。

(4) 成績評価に対する異議申し立てへの回答

審査委員会で検討を行い、「成績評価異議申立書」受理後5日以内（土日祝日、大学休業日を除く）に、事務部教務課から返却します。

返却時に本人確認を行いますので、学生証を持参してください。

3 その他

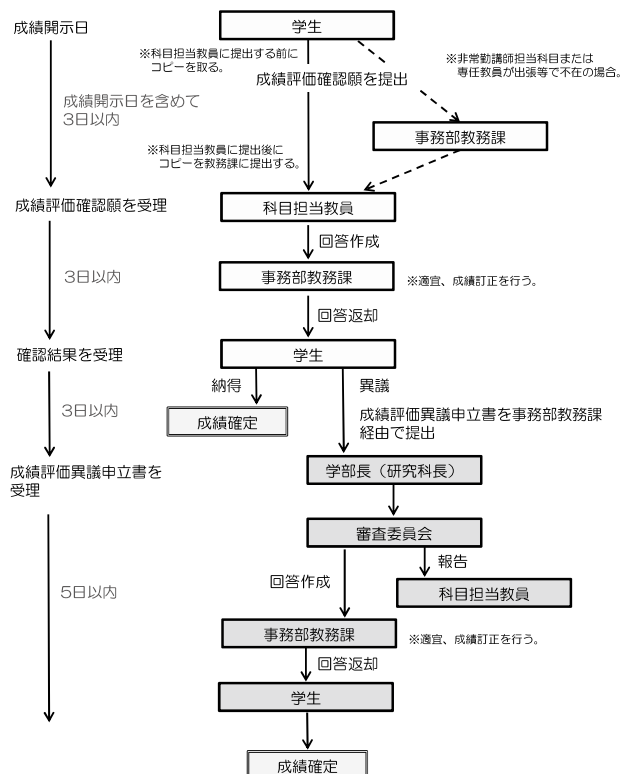
(1) 「成績評価確認願」「成績評価異議申立書」の提出にあたり、事実の誤認がないか、自身の課題提出状況や出席状況、科目担当教員からの指示内容を再確認し、確認や異議申し立ての対象となる理由に該当する場合のみ提出してください。理由・根拠が不十分であるもの、虚偽の理由では受理できません。これらの書類は、科目担当以外の教員も確認しますので、誰が読んでも内容が理解できるように記入してください。

(2) 成績開示時期に未採点となっている科目（集中講義科目など）については、個別に開示された日を基準として取り扱います。

(3) 不合格科目について、成績評価の確認または異議申し立てを行い、結果が通知されるまでの間は、既に開示されている成績評価に基づいて、必要な手続き等を行ってください。

(4) 不合格科目について、成績評価の確認または異議申し立てを行い、結果が通知されるまでの間に学期末を超える場合は、学部長（研究科長）の判断において諸手続きの取り扱いが考慮される場合があります。

成績評価に対する異議申し立て手続きのフロー図



授業科目の履修

履 修 計 画

大学の授業科目は、バラバラに独立して作られているのではなく、相互に関連し合うように組み立てられています（カリキュラムマップ及びツリー、薬学部授業科目履修規程別表第1～4）。低学年から高学年へと授業を順序良く履修することによって、知識・技能・態度を積み上げていくことになります。

卒業要件（新潟薬科大学学則第44条）となっている単位数は必要最低限の条件です。この条件の充足を目標として履修するより、少し余裕のある履修計画をたてておくことも大切です。

授業科目によっては、履修するために必要な条件（履修条件）が定められているものがあります。それらの授業科目は、指定された条件を満たしていないと履修できませんので履修条件一覧（p.25、31、38、45）に記載されている内容を確認しておいてください。

履 修 登 録

授業時間割表（及び実習系科目・集中講義科目日程表）の中から履修を希望する授業科目を予め届け出て許可を得る履修申請によるか、または申請なしで授業科目の履修が登録されることを履修登録といいます。すべての選択科目と一部の必修選択科目は、授業が始まる前に履修申請を行う必要があります（履修規程第2条）。まだ、単位を取得していない科目のことを「未修得科目」といいます。未修得科目について、自分の在籍学年が別表の配当学年以上であれば、その授業科目を履修することができます。ただし、原則として、同じ曜日・時限に開講される科目を重複して履修することはできませんので注意して履修計画を立ててください。

(1) 必修科目の履修登録

通常は履修申請の必要はありません。自動的に登録されます。

(2) 選択必修科目の履修登録

【履修規程別表第4適用者のみ】

選択必修科目の履修申請の方式や締切日は、年度初めのオリエンテーションやポータルサイトを通じてあらかじめ指定されます。申請期限後の履修科目変更は、原則として認められません。

選択必修科目は定員が定められており、申請数が定員を超えた際には同一科目グループの別科目

を履修することになる場合があります。また、期日までに履修申請をしなかった場合は、任意の科目が選択され登録されます。

(3) 選択科目の履修登録

選択科目の履修申請の方式や締切日は、年度初めのオリエンテーションやポータルサイトなどを通じてあらかじめ指定されます。申請期限後の履修科目変更は、原則として認められません。

選択科目には定員が定められており、申請数が定員を超えた際には履修が認められない場合があります。

(4) 以前修得した科目（既修得科目）の再履修登録

留年生に限り、一度履修し、単位を修得した科目を再び履修することができます。授業が始まる前に履修申請を行う必要があります。ただし、現在自分の在籍している学年次の科目の履修が優先されます。

(5) 留年した学年次における履修登録

在籍年次に修得できなかった必修科目については必ず時間割に定められた曜日・時限において再履修（単位を修得できなかった科目を再び履修すること）して単位を修得しなければいけません。この場合、履修申請の必要はありません。ただし、在籍年次以前の学年に修得できなかった必修科目（過年度に履修した未修得科目）を時間割に定められた曜日・時限において再履修する場合には履修申請が必要です。また、科目担当教員の判断によって、既に修得している科目の再履修を指示されることがあります。この場合も履修申請を忘れずに行ってください。

未修得の選択科目については、単位修得を放棄して、他の選択科目を履修することもできます。

また、留年生は次の学年次の別表上網掛けされた授業科目を除く講義科目（次年次科目）の履修を各学期最大3単位まで行うことができます（履修規程第11条）。次年次科目の履修を行う場合、それらの科目すべてについて履修申請を行う必要があります。なお、次年次科目の定期試験が不合格だった場合、再試験は適用されず、再び履修することになります（追試験は適用されます）。進級することを第一に考え、在籍年次の必修科目履修を優先した履修計画を立ててください。

試 験

履修科目の単位を認定する試験には、定期試験、追試験、再試験及びその他の試験の4種類があります（履修規程第4条）。

(1) 定期試験

前期末及び後期末等の決まった期間に行われる試験です（学年暦を参照のこと）。授業時間（コマ）数の3分の1を超えて欠席していると受験できません（履修規程第5条）。ただし、公欠、忌引は欠席に算入しません（履修規程第3条）。

定期試験を欠席したときは、1週間以内に試験欠席届（と証明書）を提出しなければいけません。提出を怠ったときは、(2)の追試験を受験できなくなります（履修規程第7条）。

(2) 追試験

疾病、公共交通機関の乱れ、天災の発生、忌引き等のやむを得ない事情により、定期試験またはその他の試験を受験できなかった者に対して行う試験です（履修規程第4条）。追試験の受験を希望する者は、試験の日から原則1週間以内に試験欠席届とその理由を証明する書類（医師の診断書等）を提出しなければいけません。

追試験の受験手続きは所定の期日に行ってください。定期試験の追試験については1科目につき1,000円の手数料を納める必要があります（履修規程第5条）。定期試験の追試験の評価は、90点を最高点とします（履修規程第4条）。

(3) 再試験

定期試験の評点が60点未満の者及び定期試験を欠席した者に対して、科目担当教員が必要と認めた場合、その年度中1回だけ行われる試験です。ただし、2021年度末に在籍していた学生についてのみ、配当学年が4年次前期及び6年次前期の科目の一部は、例外的にその年度中に2回目の再試験が実施されることがあります（履修規程第4条）。ただし、2回目の再試験が実施される場合でも、1回目の再試験の受験手続きをしていないときは受験できません（履修規程第5条）。

再試験の受験手続きは所定の期日に行ってください。1科目につき2,000円の手数料を納める必要があります（履修規程第5条）。再試験の評価は、60点を最高点とします（履修規程第4条）。

(4) その他の試験

前述の3種類の試験に当てはまらない試験です。

学年到達度試験

「各科目内容を対象に、より詳細な知識の修得度を知る」ことを目的とした定期試験とは別に、「入学から学んできた内容を対象に、総括的な知識、継続的な修得度を知る」ことを目的とした学年到達度試験を2～6年生に対して実施しています。

試験に関する諸注意

実施日時、場所など、試験に必要なことは、すべてポータルサイトに掲示されます。試験を受けるためには、学生証が必要です。忘れた場合は、事務部で仮学生証の交付を受けてください。

受験時は、指定された席に座り、筆記用具以外の携帯品は試験監督者が指示する場所に置き、学生証は通路側に置いてください。携帯電話などの電源は必ず切ってください。遅刻者は、試験開始30分以内に限り受験が認められます。

原則として試験開始からの30分間と試験終了前5分間は退席できません。その他、特別に定める事項がある場合には、それに従ってください。

不正行為があった場合は、当該学期中の実習科目を含む全ての科目が不合格となり、その時点で留年が決定します。（中には処分対象としない科目がありますが「受験心得」を参照してください。）なお、試験における不正行為等とは、以下の(1)～(11)の項目に該当する行為をいいます（受験心得）。

- (1) 机上や見える位置に事前に書き込みをする、またはそれに類する物品を故意に配置し、それを閲覧する。
- (2) 許可されていない物品を机の上に置く、身につけるまたは使用する。
- (3) 解答開始の指示の前に、問題を閲覧するまたは解答を始める。
- (4) 他人の学生証を提示するまたは他人の氏名を解答用紙に記入する。
- (5) 他の受験者と会話するまたは解答を教える。
- (6) 他の受験者の解答用紙等を見るまたは解答を教わる。
- (7) 解答用紙を提出する前に、問題用紙を場外へと持ち出す。
- (8) 解答用紙を試験監督者に提出せずに、場外へと持ち出す。
- (9) 解答終了の指示があったにもかかわらず、解答を続ける。
- (10) 試験監督者等の制止に関わらず、他人への迷

惑行為を続ける。

- (11) その他、公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をする。

学 業 成 績

各科目の学業成績は、シラバスに記載されている評価基準に従って評価されます。

成績評価は、秀、優、良、可、不可の5種で表され、秀、優、良、可は合格、不可は不合格です（学則第39条）。そのほかに、以下のとおり表すものがあります。

否：出席回数不足で定期試験受験資格を失った（履修規程第5条）

追欠・欠：試験を欠席した

放：受験手続をしなかったことにより追・再試験受験資格を放棄した（履修規程第5条）

※令和6年度より成績評価及び成績基準に用いない

認：他大学等で修得した科目を認定された

なお、「不可」、「否」、「追欠」、「欠」及び「放」はいずれも不合格です。

学業成績の評価基準

区分	評価	評点	GP	評価基準
合 格	S (秀)	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分達成し、特に優れている
	A (優)	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分達成し、優れている
	B (良)	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成している
	C (可)	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低限達成している
不合格	D (不可)	60点未満	0.0	授業科目の到達目標を達成していない
	X (追欠)	欠		天災、疾病などやむを得ない事情により定期試験を欠席
	Y (欠)			試験を欠席
	Z (否)	否		出席回数不足により定期試験受験資格なし
	※G (放)	放		追再試験受験資格放棄
認 定	E (認)	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等で修得した科目を本学部の単位として認定

※2024年度以降は評価基準に用いない

進 級 基 準

在籍している学年までの授業科目単位を一定以上修得しない限り上の学年に進級できません。その進級のための科目修得要件を「進級基準」と言います（履修規程第10条（p.18）、薬学部進級基準（p.47～48））。また、学年終了時に進級基準を満たせず、進

級できなくなり、そのままの学年次に留まることを「留年」といいます。

修業年限及び在学年限

薬学部の修業年限は6年です（学則第18条）。また、在学年限は以下のように定められ（学則第19条）、その限度を超えて在学することはできません。

- ・在学年限（大学に在学できる最大年数）：12年
- ・それに加えて、同一学年次には3年までしか在学できません。さらに1～4年次には合計8年、5、6年次には合計4年までしか在学できません。

過年次に履修した未修得科目の修得方法

進級／留年にかかわらず、在籍年次よりも下位の学年次に配当された未修得科目（ただし、評価が「否」以外のもの）は、原則として当該科目の遠隔授業を活用して再履修し、定期試験を（必要により追・再試験も）受験して単位を修得してください（履修規程第9条）。この場合、履修申請の必要はありません（履修規程第2条）。ただし、時間割に定められた曜日・時限における当該科目の履修が可能な場合には、その曜日・時限において再履修することもできます（履修規程第9条）。この場合は、必ず履修申請をしてください（履修規程第2条）。

評価が「否」となった未修得科目については、当該科目を遠隔授業ではなく、必ず時間割に定められた曜日・時限において再履修し、単位を修得しなければなりません（履修規程第9条）。評価が「否」となった未修得科目を持ったまま進級した場合でも、在籍年次に配当された授業科目の履修が優先されます。そのため、当該科目を再履修できなくなり、留年する場合があるので注意してください。

卒 業 研 究

卒業研究は、大学（学部）教育の総まとめとも言える総合科目の一つで、4年次から6年次前期にかけて実施されます。これまでに各教科目で修得してきた知識、技能を総合的、発展的に駆使して特定の研究課題に取り組みます。その成果が合格と判定されれば所定の単位が認定されます。

卒業研究の意義

卒業研究では、配属された研究室の教員と話し合って研究テーマを設定し、研究を行うことになります。研究は、これまでの講義や実習と異なり、未知の事象の解明や創造を行う活動です。そのため困

難を伴い、所期の成果が容易に得られないと思われます。そのため良い成果が得られたときには何物にも代え難い大きな感動や喜びが得られます。このような体験は、自信につながり、将来、様々な難局に直面した際にそれらを乗り越える勇気と、難問を解決する能力を与えてくれます。さらに、研究室で教員、大学院生あるいは同級生と研究上の議論を行うことは勿論ですが、同時にそれらの研究室のメンバーと日常的に接する中で、研究以外の人間的な触れ合い、物の見方考え方を学ぶ絶好のチャンスともなります。

研究課題と研究室配属

研究課題は各研究室で行われている研究によって異なります。研究室紹介や卒業研究発表会、研究室への訪問などで、各研究室の研究内容を確認することもできます。

配属研究室は3年次後期に決定します。研究室の配属学生数は、教員あたりの学生数ができるだけ均等になるように設定されています。学生が希望の配属研究室を申請し、所定の方法により決定します。

卒業の要件

薬学部を卒業するためには、所定の授業科目を履修して186単位以上を修得するとともに、履修規程に示す条件を充足していなければなりません。

GPA制度とCAP制

学生が授業科目を履修するにあたっては、グレード・ポイント・アベレージ（成績平均値＝GPA）制度に基づく履修登録単位数の上限設定（CAP制）により行うこととしています。（新潟薬科大学薬学部GPA制度及びCAP制に関する取扱要項）

（GPA制度）

GPA制度は、透明性の高い成績管理と履修指導、学生の責任のある履修行為の促進、学習意欲の向上を目的とし、次のとおり取り扱います。

- (1) 各授業科目の成績評価に基づき、グレード・ポイント（以下「GP」という。）を付します。評価とGPについては、「学業成績の評価基準」（p.11）に記載があります。
- (2) GPAは、履修した授業科目の単位数にGPを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出します。

GPAの算出方法

秀の修得単位数×4.0+優の修得単位数×3.0+良の修得単位数×2.0+可の修得単位数×1.0

総履修登録単位数

- (3) GPAは小数第4位を四捨五入し、小数第3位までの数値とします。
- (4) GPAの対象科目は、履修登録したすべての授業科目とします。ただし、次に掲げる科目は、GPAの対象科目から除きます。
 - ・新潟薬科大学学則第40条、41条及び42条により、本学の授業科目の履修により修得したものと単位認定された科目
 - ・履修登録取消期間に、取消申請があった科目
 - ・履修登録取消期間を経過した後、休学、病気欠席等のやむを得ない事由で、学生から取消申請があった科目で、薬学部教務委員会が許可した科目

（CAP制）

CAP制は、単位制度を実質化（1単位当たり必要な45時間の学修時間を確保）し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的とし、各年度の履修登録単位数の上限を設けるものです。

各年度の履修登録単位数の上限を49単位とします。なお、CAP制には次の授業科目は含めません。

- ・履修登録取消期間に、取消申請があった科目
- ・履修登録取消期間を経過した後、休学、病気欠席等のやむを得ない事由で、学生から取消申請があった科目で、薬学部教務委員会が許可した科目
- ・4年次後期、6年次前期における臨床実務実習
- ・4年次、5年次における卒業研究

臨床実務実習

4年次の2月～5年次の2月の間に、11週間の期間を4期設けて、1期－2期、2期－3期、3期－4期とそれぞれ連続した2期間で、薬局実習と病院実習を行います。この臨床実務実習は必修科目ですが、臨床実務実習を履修するためには、4年次から5年次の進級要件を全て満たし、4年次の12月～翌年2月の間に実施される薬学共用試験に合格しなければなりません。さらに、4年次には臨床実務実習のための実務に即した準備として、学内で約2ヵ月間の臨床実務実習事前学習（講義・実習・演習）を行います。なお、臨床実務実習では、病院・薬局実務実習関東地区調整機構という第三者機関を介し

て、実習先である病院と薬局が学生個々に割り振られます。

薬学共用試験について

6年制教育では、C B T (Computer-Based Testing) と O S C E (Objective Structured Clinical Examination) とよばれる2種類の薬学共用試験が、4年次終了前の12月～翌年2月に実施されます。全国の6年制課程薬学部、薬科大学に一律に課せられる共用試験を受験するにあたっては、1年次～4年次で定められた単位をすべて修得しておく必要があります。

(1) C B T について

C B T は、臨床実務実習事前学習を含む1～4年で学修した薬学の専門知識が、臨床実務実習を行うために十分に活かせるかどうかを判断するための試験です。試験はコンピューターが整備された特別な試験場で実施され、学生は共用試験センターから配信された問題(310問)に対し、午前・午後の6時間をかけて、コンピューターの画面上で解答します。60%以上の正答がC B T の合格基準であり、この基準に達しない場合は再試験を受験することになります。追・再試験の合格基準も本試験と同様です。合格するためには、1年次からの各講義、実習・演習科目の内容について確実な理解が必要です。

(2) O S C E について

O S C E は臨床実務実習を行うために必要な臨床的技能、態度が十分に修得されているかどうかを判断する試験です。患者・来局者応対、薬剤の調製(散剤、水剤、計数調剤、軟膏剤)、調剤監査、無菌操作の実践、情報の提供の5領域から6課題が出題されます。評価者2名による細目評価ならびに概略評価で、全課題に対して合格基準を上回ることが必要ですが、合格に達しなかった課題に対しては再試験が行われます。4年次の後期に実施する臨床実務実習事前学習などで、臨床的技能・態度について十分に修得することが必要です。

薬剤師国家試験について

2012年度から実施されている6年制薬学教育修了者を対象とした薬剤師国家試験では、モデル・コアカリキュラムを基本とした出題基準となっています。出題区分が、必須問題、一般問題(薬学理論問題)、一般問題(薬学実践問題)の3区分に分類され、総問題数は345問です。また、必須問題については、全90問のうちで70%以上であることと、必須問題を構成する各科目の配点の30%以上であることが必要

です。3つの区分の中では、薬学実践問題が新教育制度下での薬剤師国家試験の特徴となっており、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」の各領域の問題と「実務」問題を組合せた複合問題(下表を参照)が出題されます。基礎薬学から臨床薬学にわたって、薬学全般の幅広い理解度が要求されています。

領域	出題基準 (大項目)	問題区分			出題 数計
		必須 問題	一般問題		
			薬学理論問題	薬学実践問題	
物理・ 化学・ 生物	物質の物理的性質	15問	30問	15問 (複合問題)	60問
	化学物質の分析				
	化学物質の性質と反応				
	生体分子・医薬品の化学による理解				
	自然が生み出す薬物				
	生命現象の基礎				
	人体の成り立ちと生体機能の調節				
	生体防御と微生物				
衛生	健康	10問	20問	10問 (複合問題)	40問
	環境				
薬理	薬の作用と体の変化	15問	15問	10問 (複合問題)	40問
	薬の効き方				
薬剤	薬の生体内運命	15問	15問	10問 (複合問題)	40問
	製剤化のサイエンス				
薬物・ 病態・ 治療	薬の作用と体の変化	15問	15問	10問 (複合問題)	40問
	病態・薬物治療				
	薬物治療に役立つ情報				
倫理・ 法規・ 制度	プロフェッショナルリズム	10問	10問	10問 (複合問題)	30問
	薬学と社会				
実 務	薬学臨床基本事項	10問	0 問	20問 + 65問 (複合問題)	95問
	薬学臨床実践				
出題数計		90問	105問	150問	345問

◆ポータルサイトに国家試験出題基準を掲載しています。

数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて

内閣府が発表した「AI戦略2019」では、政府が標榜するSociety5.0の実現に向け、「文理を問わず全ての大学・高専生(約50万人卒/年)が課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得」すること等を具体的目標として掲げています。本学では2021年度入学生から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を開始しました。医療科学及び生命科学分野の専門人材として、現代の「データ駆動型の社会」に対応するために必要な「数理・データサイエンス・AIの基礎的素養」を習得することを目指します。対象科目を履修し単位認定されると、プログラム修了認定証が発行されます。

対象科目は以下のとおりです。

2021年度・2022年度入学生

- (1) 情報リテラシ
- (2) フレッシュヤーズセミナー
- (3) データサイエンス I
- (4) 統計学

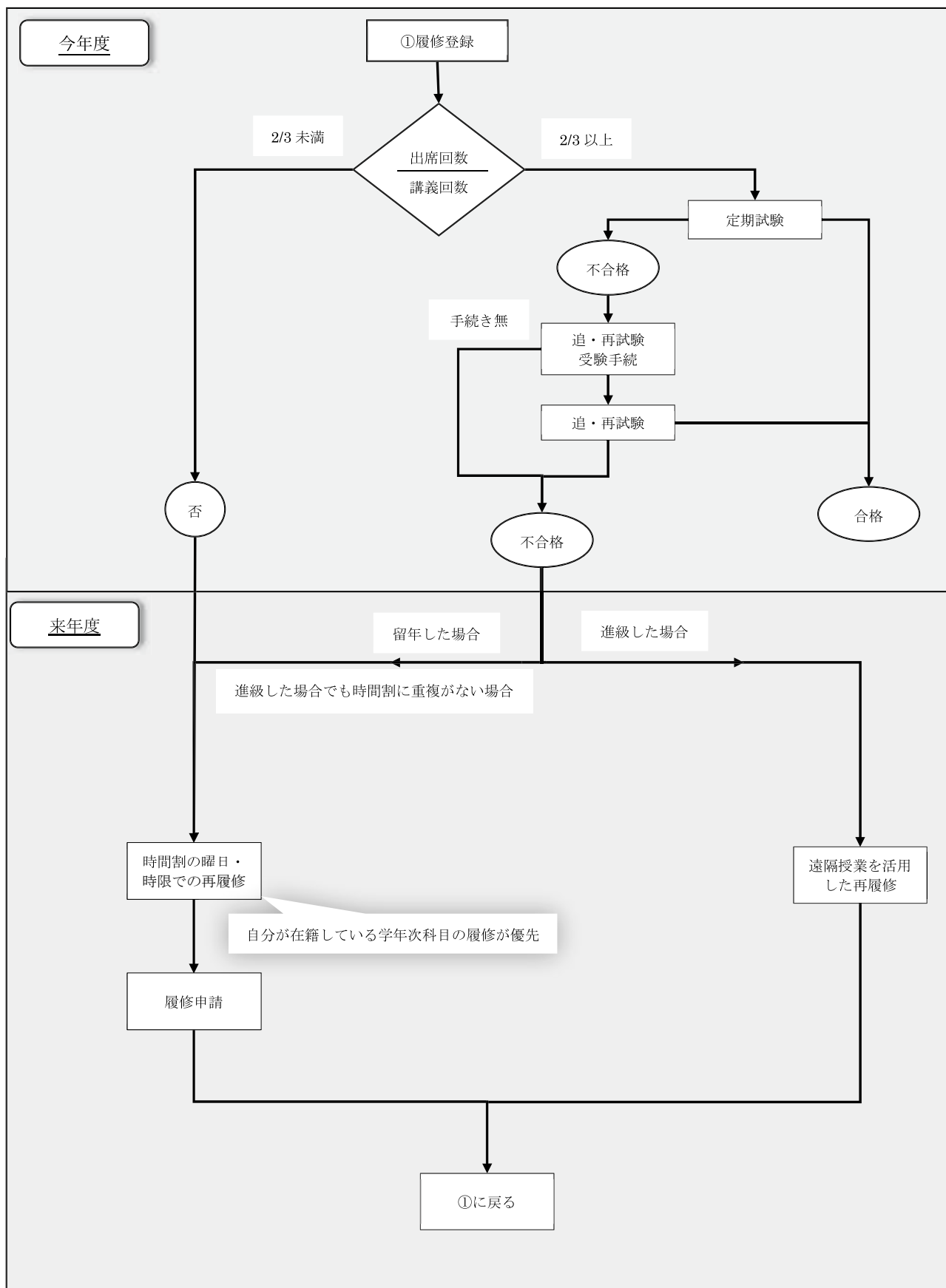
2023年度以降入学生

- (1) 情報リテラシー基礎
- (2) 情報リテラシー応用

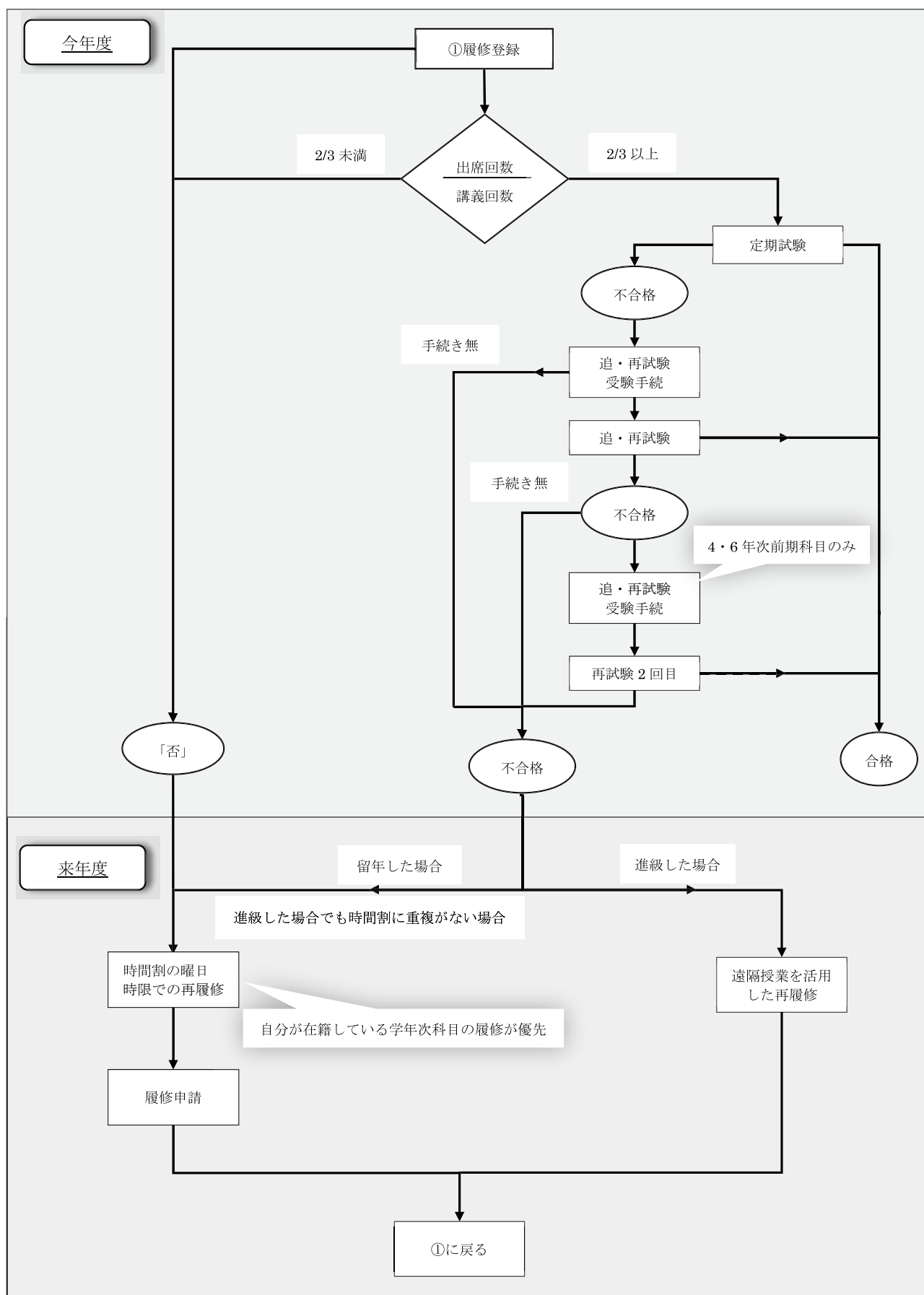
必修講義科目の試験と成績評価等の流れ図

(履修規程第4条の第5項および第5条の第3項)

【2022年度以降に入学（編・転入学、転学部も含む）した学生について】



【2021年度末に在籍していた学生について】



諸 規 程

新潟薬科大学薬学部授業科目履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、新潟薬科大学学則（以下「学則」という。）第43条及び新潟薬科大学授業科目の区分等に関する規程第4条の規定に基づき、薬学部教育課程及び履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の履修)

第2条 授業科目の区分、単位数、履修年次学期及び必修選択の別は、別表のとおりとする。

2 履修できる授業科目は、原則として当該科目の単位を修得していない科目（以下、「未修得科目」という。）とし、在籍学年が別表の各授業科目の配当学年以上であることとする。

3 必修科目については、履修申請を必要としない。

4 選択必修科目及び選択科目の履修に当たっては、所定の期日までに履修申請しなければならない。

5 選択必修科目及び選択科目の履修申請について、その科目の履修申請数が定員を超えたときには、履修を許可しない場合がある。

6 過年度に履修した科目を再度履修（以下、「再履修」という。）する際は、履修申請しなければならない。ただし、前年次までの未修得科目を学則第32条が規定する授業によって時間割に定められた曜日・時限以外に再履修する場合、及び次学年に進級できなかった者（以下、「留年者」という。）が当該年次の未修得科目を再履修する場合は、いずれもこの限りでない。

7 受け付けられた履修申請は、原則として変更を認めない。

8 同じ曜日・時限に開講される複数科目を重複して履修することはできない。ただし、前年次までの未修得科目を学則第32条が規定する授業によって時間割に定められた曜日・時限以外に再履修する場合については、この限りではない。

9 留年者の履修の特例については第11条に定める。

(履修科目の登録の上限)

第2条の2 各年度の履修登録単位数の上限は49単位とする。

(授業の出席)

第3条 授業はすべて出席しなければならない。ただし、公欠、忌引は欠席に算入しない。

2 公欠は届出により大学が適当と認めた場合と

し、忌引は父母の喪（7日以内）、祖父母・兄弟姉妹の喪（5日以内）、その他親族の喪（1日以内）、その他届出により大学が適当と認めた場合とする。いずれも欠席届にその旨を記載し、届け出なければならない。

(試験の種類等)

第4条 授業科目の単位取得の認定は試験によって判定する。試験は、定期試験、追試験、再試験及びその他の試験の4種類とし、予め必要事項を発表して学期末又は学年末等別に定める期間に実施する。

2 追試験は以下のいずれかの事由に該当し、所定の期日までにその事由を証明する書類を添えて申請があった場合に実施する。

(1) 学校保健安全法施行規則が定める感染症に罹患し定期試験時に登校禁止となった場合。

(2) 公共交通機関の乱れにより、定期試験時に登校できなかった場合。

(3) 天災の発生により、定期試験時に登校できなかった場合。

(4) 忌引きにより、定期試験時に登校できなかった場合。なお、忌引きは父母の喪（7日以内）、祖父母・兄弟姉妹の喪（5日以内）、その他親族の喪（1日以内）とする。

(5) その他やむを得ない事情により第1項に規定する4種類の試験のいずれかを欠席し、大学が適当と認めた場合。

3 前項の規定を受けて定期試験の追試験を受験した科目の最高評価点は、90点とする。追試験又は再試験の追試験を受験した科目の最高評価点は、当該追試験の対象となる試験の最高評価点とする。

4 定期試験の結果、成績不良の者に対して、当該科目の担当教員が必要と認めた場合、再試験を行う。

5 前項に定める再試験は、年度内に1度受験できる。

6 前第4項の規定を受けて受験した科目の最高評価点は、60点とする。

7 担当教員が必要と認めたとき、臨時に試験を行うことがある。

(受験資格)

第5条 定期試験は、各科目につき授業時間数の3分の2以上出席している者に受験資格を与える。ただし、定められた期限までに所定の学費を納入していない者には受験資格を与えない。

2 追試験及び再試験（以下、「追再試験」という。）については、定期試験の受験資格を与えられた者で、かつ定められた期限までに受験の届出をした者に受験資格を与える。

3 追再試験を受験する際は、受験の届出をしていなければならない。受験の届出をしていない場合は、当該年度内の当該科目の再試験（第4条第7項に定められた試験を含む。）を受験することはできない。

4 定期試験の追試験を受験する者は、1科目につき1,000円の手数料を納付しなければならない。

5 再試験を受験する者は、1科目につき2,000円の手数料を納付しなければならない。

（受験上の順守事項）

第6条 第4条及びこれに準ずる試験の受験に際しては、別に定める事項を順守しなければならない。
（試験の欠席）

第7条 定期試験を欠席した者は、当該試験日から1週間以内に試験欠席届をアドバイザー承認の上、提出しなければならない。

2 やむを得ない事情により、試験欠席届を提出できなかった者に対しての措置については、教授会の議を経るものとする。

（成績評価と単位の認定）

第8条 成績評価及び評価基準は、次のとおりとする。

【令和5年度までの入学生に適用】

区分	評価	評点	GP	評価基準
合 格	S（秀）	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分達成し、特に優れている
	A（優）	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分達成し、優れている
	B（良）	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成している
	C（可）	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低限達成している
不合格	D(不可)	60点未満	0.0	授業科目の到達目標を達成していない
	* ¹ X (追欠)	欠		天災、疾病などやむを得ない事情により定期試験を欠席
	Y（欠）			試験を欠席
	Z（否）	否		出席回数不足により定期試験受験資格なし
	* ² G (放)	放		追再試験受験資格放棄
認 定	E（認）	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等で修得した科目を本学部の単位として認定

*1：令和6年度より適用する

*2：令和6年度より成績評価及び評価基準に用いない

【令和6年度以降の入学生に適用】

区分	評価	評点	GP	評価基準
合 格	S（秀）	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分達成し、特に優れている
	A（優）	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分達成し、優れている
	B（良）	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成している
	C（可）	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低限達成している
不合格	D（不可）	60点未満	0.0	授業科目の到達目標を達成していない
	X（追欠）	欠		天災、疾病などやむを得ない事情により定期試験を欠席
	Y（欠）			試験を欠席
	Z（否）	否		出席回数不足により定期試験受験資格なし
認 定	E（認）	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等で修得した科目を本学部の単位として認定

2 前項に規定する成績評価をもとに、GPA（Grade Point Average／成績平均点数）を算出する。

（前年次までの未修得科目の修得）

第9条 前年次までの未修得科目で否の成績評価を得た科目以外については、遠隔授業により再履修して単位を修得するものとする。ただし、時間割に定められた曜日・時限における当該科目の履修が可能な場合には、その曜日・時限で再履修することができる。

2 前年次までの未修得科目で否の成績評価を得た科目については、時間割に定められた曜日・時限において当該科目を再履修して単位を修得すること。

（進級）

第10条 各学年において、別に定める進級基準を満たす単位を修得した者は、次学年に進級できる。

（留年者の授業科目の履修の特例）

第11条 留年者は、当該年次の未修得科目の単位を修得する際には、時間割に定められた曜日・時限において当該科目を再履修しなければならない。ただし、6年次後期科目の再履修については、6年次前期に別途開講される当該科目を再履修すること。

2 留年者は、当該年次の科目で、過年度に既に当該科目の単位を修得した科目（以下、「既修得科目」という。）のうち、教科担当者により指定された必修科目及び選択必修科目については、再履修しなければならない。

3 留年者は、当該年次の既修得科目について、申

請の上再履修することができる。

- 4 前2項で履修した科目の成績は、再履修で得た成績と既修得成績のいずれかよい方とする。
- 5 第2条第2項の規定にかかわらず、留年した年度に限り、次学年に配当された科目（以下「次年次科目」と言う。）を、各学期3単位を上限として履修することができる。ただし、別表第1において実習・実技・演習科目、別表第2～4において実習・実技・（実習扱いの）演習科目は履修できない。
- 6 次年次科目の履修を希望する者は、履修申請しなければならない。
- 7 次年次科目の定期試験の結果が不合格の場合は、再試験の受験を認めない。ただし、天災又は疾病その他やむを得ない事情により定期試験を欠席した場合は、追試験の受験を認めることがある。
- 8 前3項の次年次科目の単位は、当該年次の進級判定の対象としない。

附 則

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。（追再試手数料の改訂）

附 則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。（試験欠席届の変更）

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。（第2条の別表第2における授業科目の名称の変更）

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。（第6条の規程の変更）

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。（第2条の別表第1、別表第2及び別表第3の規定、第5条の規定、第11条の規定、第12条の進級基準及び注意事項の規定の変更）ただし、変更後の別表第1の規定については、平成18年度入学生から適用し、平成17年度入学生及び平成16年度1年次入学生に対しては、変更後の別表第1の規定のかわりに別表第2の規定を、平成16年度2年次編入生及び平成15年度までに入学した学生に対しては、変更後の別表第1の規定のかわりに別表第3の規定を適用する。また、変更後の第11条の規定については、平成18年度入学生から適用し、平成17年度までに入学した学生は、卒業試験合格をもって薬学総合演習の単位修得とする。なお、変更後の第5条の規定、第12条の進級基準及び注意事項の規定については、施行日現在

において在籍する者から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。（第2条の別表第1及び別表第2の変更）

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。（第2条の別表第1の変更）ただし、変更後の別表第1の規定について開講年次が繰り下がる科目についての進級基準への取扱いについては、当該年度の進級判定まで進級基準に含まない。

「医薬品のコアとパーツⅡ」は4年次への進級基準からは除外する。

「薬理作用と副作用Ⅳ」は4年次への進級基準からは除外する。

「疾患と薬物治療Ⅰ」は4年次への進級基準からは除外する。

「疾患と薬物治療Ⅱ」は4年次への進級基準からは除外する。

「薬物治療学実習」は4年次への進級基準からは除外する。

「調剤学実習」は4年次への進級基準からは除外する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。（第2条の別表第1及び第5条の変更）

「卒業研究Ⅱ」は5年次から6年次前期までに履修する。従って5年次から6年次への進級基準には含まない。また「疾病の成り立ちⅠ（病理学Ⅰ）」「疾病の成り立ちⅡ（病理学Ⅱ）」「社会保障と医療経済（医療経済学）」「医薬品の開発Ⅱ（臨床統計学）」「処方せんと調剤Ⅱ（臨床薬剤治療学）」「疾患と薬物治療Ⅰ（薬物治療学Ⅰ）」「疾患と薬物治療Ⅱ（薬物治療学Ⅱ）」「疾患と薬物治療Ⅲ（薬物治療学Ⅲ）」「疾患と薬物治療Ⅳ（薬物治療学Ⅳ）」は4年次から5年次への進級判定まで進級基準に含まない。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。（第2条の別表第1及び第5条の変更）

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。（第2条の別表第1、別表第2及び別表第3、第11条の規定、第12条の進級基準及び注意事項、並びに受験心得の変更）ただし、変更後の別表第1の規定については、平成23年度1年次入学生から適用し、平成18年度から平成22年度までの入学生で施行日現在1年次から4年次までに在籍する者及び平成23年度の

2 年次以上に編入学等を行った者に対しては、別表第 1 のかわりに別表第 2 の規定を適用し、施行日現在 5 年次または 6 年次に在籍する者に対しては、別表第 1 のかわりに別表第 3 の規定を適用する。また、変更後の第 11 条の規定並びに第 12 条の進級基準及び注意事項の規定については、なお、従前の例による。変更後の受験心得の規定については、施行日現在において在籍する者から適用する。

附 則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条の別表第 1 及び別表第 2、並びに第 12 条の進級基準の注意事項 3 の変更)

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。(第 1 条及び第 2 条第 2 項の規定の変更並びに第 2 条の別表第 1 及び別表第 2 付表 2 の変更)

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、改正後の第 11 条の規定については、平成 26 年度 1 年次入学生より適用し、施行日前日に現に在籍する者及び平成 26 年度に 2 年次以上に編入学等を行う者については、なお従前の例による。(第 11 条の成績評価基準の制定及び第 13 条の改正並びに別表第 1 及び「留年者の次年次科目の受講と単位の修得について」の変更)

附 則

- 1 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。ただし、改正後の第 11 条第 5 項に規定する次年次科目の履修単位数の上限については、平成 27 年度 1 年次入学生より適用し、施行日前日に現に在籍する者及び平成 27 年度に 2 年次以上に編入学等を行う者については、上限を設定しない。(第 11 条第 5 項留年者の次年次科目の履修単位数の上限設定。別表の改正。「注意事項」、「留年者の次年次科目の受講と単位の修得について」、「進級基準」及び「受験心得」の整理。)
- 2 改正後の第 4 条第 5 項の規定にかかわらず、施行日前日に 1 年次に在籍する者のうち 1 年次に留年となった者の 1 年次前期科目の再試験にあっては、2 度の受験を認めることがある。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条第 2 項の文言の整理並びに第 2 条の別表第 1、別表第 2 及び別表第 2 付表 2 の変更)

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。(第

2 条の別表の変更並びに第 8 条第 2 項の削除)

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条の別表第 1 及び別表第 2 の変更並びに第 4 条及び第 5 条の変更)

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条の別表第 1、別表第 2、別表第 3 及び別表第 3 付表 2 の変更並びに別表第 4 の削除)ただし、変更後の別表第 3 の規定は、平成 31 年度 6 年次に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条の別表第 1、別表第 2、別表第 3 及び別表第 3 付表 2 の変更、並びに第 8 条の変更)

附 則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条の別表及びその付表の改正、第 2 条の 2 の追加、第 10 条の進級基準の改正)

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条の第 1 項の別表、第 2 項、第 6 項、第 8 項及び第 9 項、第 4 条の第 2 項、第 3 項及び第 5 項、第 5 条の第 3 項及び第 4 項、第 7 条の第 1 項、第 9 条の第 1 項、並びに第 11 条の第 1 項～第 3 項の規定の変更、第 9 条第 2 項の規定の新設)ただし、変更後の第 4 条の第 5 項及び第 5 条の第 3 項の規定は、施行日の前日において現に在籍する者については、なお従前の例による。また、変更後の第 2 条の第 6 項及び第 8 項、並びに第 9 条の規定は、施行日の前日において現に在籍する者については、令和 5 年 4 月 1 日から適用し、それまでは、なお従前の例による。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条の別表第 2 の変更)

附 則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条の第 1 項の別表及びその付表の改正、第 3 条の第 2 項、第 4 条の第 2 項、並びに第 10 条の進級基準の改正)

附 則

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する(第 2 条の第 1 項の別表及びその付表の改正、第 5 条第 3 項の改正、第 8 条成績評価及び評価基準に関する表の改正、並びに第 10 条の進級基準の改正)

附 則

この規程は、令和 6 年 9 月 17 日から施行し、令和 6 年 4 月 1 日から適用する。(第 3 条第 2 項の文言整理)

附 則

この規程は、令和 6 年 12 月 2 日より施行し、令和 6 年 4 月 1 日より適用する。(第 8 条成績評価及び評価基準に関する表の改正)

附 則

この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。(第 2 条第 1 項の別表第 5 の削除)

年次別授業科目単位配分表（薬学部授業科目履修規程第2条第1項関係）

別表第1〔令和6年度（2024年度）以降の1年次入学生及び令和7年度（2025年度）の2年次に編入学等を行った学生に適用〕

（必修科目）

区分		授業科目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1年		2年		3年		4年		5年		6年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
教養科目	外国語科目	英語Ⅰ	1	1											15.5単位	
		英語Ⅱ	1		1											
		英語Ⅲ	1			1										
		英語Ⅳ	1				1									
		英語Ⅴ	1					1								
		英語Ⅵ	1						1							
	自然科学系科目	基礎数学	2	2												
		情報リテラシー基礎	2	2												
		情報リテラシー応用	2		2											
		物理学Ⅰ	1	1												
		物理学Ⅱ	1	1												
専門科目	薬学導 入科目 薬学総 合科目	薬学に親しむ	1		1											
		フレッシュャーズセミナー	0.5	0.5												
		くすりと科学Ⅰ	0.5		0.5											
		くすりと科学Ⅱ	0.5			0.5										
	基礎	薬学の基礎	1.5		1.5											
		化学平衡Ⅰ	1	1												
		化学平衡Ⅱ	1	1												
		電磁波・放射線と物質の相互作用	1.5		1.5											
		物質のエネルギーと物理平衡	1.5		1.5											
		物質の変化と反応速度	1.5			1.5										
		分子の構造	2	2												
		有機化学反応	2		2											
		官能基の性質	2			2										
		機器を用いる分析法	2			2										
	薬	化学物質の構造決定	1.5				1.5									
		医薬品の定性定量分析	2				2									
		生体分子のコアとパーツ	1.5					1.5								
		薬用植物と生薬	1.5					1.5								
		生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5							
		細胞の構造と機能Ⅰ	1	1												
		細胞の構造と機能Ⅱ	1	1												
		体の構造と機能	1.5		1.5											
		感染症と微生物Ⅰ	1.5		1.5											
		感染症と微生物Ⅱ	1.5			1.5										
	学	生命情報と遺伝子	1.5			1.5										
		タンパク質の構造と機能	1.5			1.5										
		生体防御と免疫	2				2									
		生命活動と代謝	1				1									
		物理化学演習	1				1									
		基礎科学実習Ⅰ	0.5	0.5												
		基礎科学実習Ⅱ	1		1											
		基礎科学実習Ⅲ	1		1											
		薬品有機化学実習	1			1										
		人体構造学実習	0.5			0.5										
	科	微生物学実習	1				1									
		医薬品分析実習	1					1								
		生化学実習	1				1									
		生薬化学実習	0.5						0.5							
		疫学と保健・医療統計	1.5			1.5										
		放射線の体への影響	0.5			0.5										
		生活環境と健康	1.5				1.5									
		栄養と健康	1					1								
		公衆の健康維持・増進	0.5					0.5								
		化学物質と毒性	1.5						1.5							
目	衛生薬学科目	災害薬学	1							1						
		環境衛生実習	1						1							

区 分		授 業 科 目	単 位 数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
				1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
専 門 薬 学 科 目	医 療 薬 学 科	病態生理	1.5				1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

- 備考 1 網掛けした授業科目は、実習・演習科目を表し、1単位について原則15回で構成される。ただし「臨床実務実習」は1単位について最大23回で実施される。
- 2 1単位について、網掛けした授業科目以外の科目は原則8回で構成されるが、外国語科目だけは原則12回で構成される。
- 3 必修科目の一部については履修に条件が付される場合がある。

(選択科目)

区分		授業科目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1年		2年		3年		4年		5年		6年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
教養科目	外国語科目	ドイツ語	2	2											外国語科目、人文社会系科目、自然科学系科目をそれぞれ1単位以上必ず含み、合計5単位以上修得すること	
		中国語	2	2												
		コリア語	2	2												
		ロシア語	2	2												
		学術英語	1		1											
		海外語学研修	1		1											
	人文社会系科目	経済学	1	1												
		法学	1	1												
		社会心理学	1		1											
		マス・メディア論	1	1												
		哲学	1		1											
		新潟の風土と歴史	1		1											
		新潟の食文化	1	1												
		文化人類学	1		1											
	科目体育	スポーツ	1	1												
	自然科学系科目	植物学	1		1											
		昆虫と人のかかわり	1		1											
		大地の構造と地震	1	1												
		プログラミング基礎	2		2											
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2		2											
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2		2											
専門科目	基礎薬学系科目	リード化合物の創製	1			1								基礎薬学系科目2単位以上、専門医療薬学系科目2単位以上をそれぞれ必ず含み、合計5.5単位以上修得すること		
		目的化合物をつくる	1			1										
		医薬品の歴史	1			1										
		運動生理	1		1											
		香粧品の科学	1			1										
		新薬の開発	1				1									
		食品の安全管理	2				2									
	専門医療薬学系科目	医薬品の開発と治験	1				1									
		病気と栄養	1					1								
		スポーツ薬学	1					1								
		遺伝情報の臨床応用	1					1								
		予防医療とプライマリケア	1					1								
		科学技術の進歩と医療倫理	1					1								
		医薬ビッグデータ解析	0.5					0.5								
		サプリメントと保健機能食品の科学	1										1			
		多様化する福祉課題と地域共生社会	1										1			
		臨床心理学	1										1			
		薬局の役割と経営	1										1			
		アロマセラピー	1		1											
		地域医療を学ぶ	1			1										
		多職種連携	1					1								
新潟地域でよく見られる疾病	1					1										
海外医療事情を学ぶ	1							1								
実践薬学臨床実習	1.5										1.5					

- 備考 1 選択科目の一部については、開講しない場合がある。
2 1単位について、選択科目は原則8回で構成されるが、外国語科目は原則12回で構成される。
また、実技・実習科目は原則15回で構成される。
3 選択科目の一部については、履修に条件が付されることがある。

別表第1付表 卒業要件単位区分表

区 分	教 養 科 目	専 門 科 目	合 計
必修科目	15.5単位	160単位	175.5単位
選択科目	5単位以上	5.5単位以上	10.5単位以上
合計	20.5単位以上	165.5単位以上	186単位以上

履修条件一覧

【履修規程別表第1適用者】 (必修科目)

科目名称	履修条件
循環器・血液・造血管疾患の薬物治療	臨床実務実習を終えていること
神経・精神・筋・骨・泌尿器・生殖器疾患の薬物治療	臨床実務実習を終えていること
代謝・内分泌・免疫・アレルギー疾患の薬物治療	臨床実務実習を終えていること
呼吸器・消化器・皮膚・感覚器疾患と感染症の薬物治療	臨床実務実習を終えていること
悪性腫瘍の薬物治療と緩和医療	臨床実務実習を終えていること
先端医療	臨床実務実習を終えていること
薬剤師と法律・制度	臨床実務実習を終えていること
薬剤使用評価	臨床実務実習を終えていること
臨床実務実習	薬学共用試験に合格し、臨床実務実習開始直近の臨床実務直前演習を終えていること
医療現場で役立つ物理学・化学・生物学	臨床実務実習を終えていること
医療現場で役立つ衛生薬学	臨床実務実習を終えていること
医療現場で役立つ薬理学	臨床実務実習を終えていること
医療現場で役立つ薬剤学	臨床実務実習を終えていること
薬学総括演習Ⅱ	臨床実務実習の単位を修得していること

(選択科目)

科目名称	履修条件
海外語学研修	別途指示
海外医療事情を学ぶ	別途指示

別表第2〔令和5年度（2023年度）の1年次入学生及び令和6年度（2024年度）の2年次に編入学等を行った学生に適用〕
（必修科目）

区分		授業科目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1年		2年		3年		4年		5年		6年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
教養科目	外国語科目	英語Ⅰ	1	1											16.5単位	
		英語Ⅱ	1		1											
		英語Ⅲ	1			1										
		英語Ⅳ	1				1									
		英語Ⅴ	1					1								
		英語Ⅵ	1						1							
	自然科学系科目	基礎数学	2	2												
		情報リテラシー基礎	2	2												
		情報リテラシー応用	2		2											
		物理学	1.5	1.5												
		統計学	1.5		1.5											
		物理学演習	0.5	0.5												
		化学演習	0.5	0.5												
		生物学演習	0.5	0.5												
専門科目	薬学導 合科目	薬学に親しむ	1		1											
		フレッシュャーズセミナー	0.5	0.5												
	薬学総 基 礎 薬 学 科 目	くすりと科学Ⅰ	0.5		0.5											
		くすりと科学Ⅱ	0.5			0.5										
		化学平衡	1.5	1.5												
		電磁波・放射線と物質の相互作用	1.5		1.5											
		物質のエネルギーと物理平衡	1.5		1.5											
		物質の変化と反応速度	1.5			1.5										
		分子の構造	1.5	1.5												
		有機化学反応	1.5		1.5											
		官能基の性質	1.5			1.5										
		機器を用いる解析法	1.5			1.5										
		化学物質の構造決定	1.5				1.5									
		医薬品の定性定量分析	1.5				1.5									
		生体分子のコアとパーツ	1.5					1.5								
		薬用植物と生薬	1.5					1.5								
		生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5							
		細胞の構造と機能	1.5	1.5												
		体の構造と機能	1.5		1.5											
		感染症と微生物Ⅰ	1.5		1.5											
		感染症と微生物Ⅱ	1.5			1.5										
		生命情報と遺伝子	1.5			1.5										
		生体防御と免疫	1.5				1.5									
		栄養の摂取と代謝	1.5				1.5									
		生体の情報伝達	1.5					1.5								
		物理化学演習	0.5		0.5											
		有機化学演習Ⅰ	0.5		0.5											
		有機化学演習Ⅱ	0.5			0.5										
		生物化学演習Ⅰ	0.5			0.5										
		生物化学演習Ⅱ	0.5				0.5									
		分析化学演習	0.5				0.5									
		基礎科学実習Ⅰ	0.5	0.5												
		基礎科学実習Ⅱ	0.5	0.5												
		基礎科学実習Ⅲ	1		1											
		基礎科学実習Ⅳ	1		1											
		薬品有機化学実習	1			1										
人体構造学実習	0.5			0.5												
微生物学実習	1			1												
医薬品分析実習	1				1											
生化学実習	1				1											
生薬化学実習	0.5					0.5										
衛生薬学科目	疫学と保健・医療統計	1.5			1.5											
	生活環境と健康	1.5			1.5											
	化学物質と毒性	1.5				1.5										
	災害薬学	1										1				
	環境衛生実習	1					1									

区分		授業科目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
				1年		2年		3年		4年		5年		6年																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
専門科目	医療	病態生理	1.5			1.5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

区 分		授 業 科 目	単 位 数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
専 門 科 目	学 科 目	医療現場で役立つ薬理学	0.5										0.5		159単位	
		医療現場で役立つ薬剤学	0.5										0.5			
	科 目	卒業研究	10							10						
		薬学総括演習Ⅰ	4							4						
		薬学総括演習Ⅱ	5											5		

- 備考 1 ネット掛けした授業科目は、実習・演習科目を表し、1単位について、実習科目は原則23回で構成され、演習科目は原則15回で構成される。
- 2 1単位について、ネット掛けした授業科目以外の科目は原則8回で構成されるが、外国語科目だけは原則12回で構成される。
- 3 必修科目の一部については履修に条件が付される場合がある。

(選択科目)

区分		授 業 科 目	単 位 数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
教 養 科 目	外国語科目	ドイツ語	2	2											外国語科目、人文 社会系科目、自然 科学系科目をそれ ぞれ1単位以上必 ず含み、合計5.5単 位以上修得するこ と	
		中国語	2	2												
		ロシア語	2	2												
		ロシア語	2	2												
		学術英語	1		1											
		海外語学研修	1		1											
		薬学英語Ⅰ	0.5					0.5								
		薬学英語Ⅱ	0.5						0.5							
		薬学英語Ⅲ	0.5								0.5					
	人文社会系科目	経済学	1	1												
		法学	1	1												
		社会心理学	1		1											
		マス・メディア論	1	1												
		哲学	1		1											
		新潟の風土と歴史	1		1											
		新潟の食文化	1	1												
		文化人類学	1		1											
		科目体育	スポーツ	1	1											
	自然科学系科目	化学概論Ⅰ	1	1												
		化学概論Ⅱ	1		1											
		生物概論Ⅰ	1	1												
		生物概論Ⅱ	1		1											
		植物学	1		1											
		気象学	1		1											
		昆虫と人のかかわり	1		1											
		大地の構造と地震	1	1												
		プログラミング基礎	2			2										
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2			2										
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2			2										
専 門 科 目	基礎薬学系科目	リード化合物の創製	1				1							基礎薬学系科目2 単位以上、専門医 療薬学系科目2単 位以上をそれぞれ 必ず含み、合計5 単位以上修得する こと		
		目的化合物をつくる	1				1									
		医薬品の歴史	1				1									
		運動生理	1				1									
		香粧品の科学	1					1								
		新薬の開発	1						1							
		食品の安全管理	1						1							
		専門医療薬学系科目	医薬品の開発と治験	1				1								
			病気と栄養	1						1						
	スポーツ薬学		1						1							
	遺伝情報の臨床応用		1						1							
	予防医療とプライマリケア		1						1							
	科学技術の進歩と医療倫理		1						1							
	サプリメントと保健機能食品の科学		1									1				
	多様化する福祉課題と地域共生社会		1									1				
	臨床心理学		1									1				
	薬局の役割と経営		1									1				
	アロマセラピー		1			1										
	地域医療を学ぶ		1				1									
	多職種連携Ⅰ		1						1							
	多職種連携Ⅱ	1						1								
	海外医療事情を学ぶ	1								1						

- 備考 1 選択科目の一部については、開講しない場合がある。
- 2 1単位について、選択科目は原則8回で構成されるが、外国語科目だけは原則12回で構成される。ただし、実習科目については、網掛けした実習科目の授業回数に準ずるものとする。
- 3 実技科目については原則15回で構成される。
- 4 選択科目の一部については、履修に条件が付されることがある。

別表第2付表1 卒業要件単位区分表

区 分	教 養 科 目	専 門 科 目	合 計
必 修 科 目	16.5単位	159単位	175.5単位
選 択 科 目	5.5単位以上	5単位以上	10.5単位以上
合 計	22単位以上	164単位以上	186単位以上

別表第2付表2

別表第2と別表第1の授業科目の対応表

区分	別表第2の授業科目	別表第1の授業科目	備 考
必修科目	物理学	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
	化学平衡	化学平衡Ⅰ 化学平衡Ⅱ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能Ⅰ 細胞の構造と機能Ⅱ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
	機器を用いる解析法	機器を用いる分析法	
	栄養の摂取と代謝	生命活動と代謝 栄養と健康	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。 ※2025年度以降2年次在籍生は3年次進級に用いない（4年次への進級に用いる）。
	基礎科学実習Ⅳ	基礎科学実習Ⅱ	
	薬理作用と薬物治療の基礎	タンパク質の構造と機能 薬理・薬物治療の総論	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
	薬物動態と薬物間相互作用	薬物動態と薬物間相互作用Ⅰ 薬物動態と薬物間相互作用Ⅱ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
	薬物動態パラメータと速度論解析	薬物動態パラメータと速度論解析Ⅰ 薬物動態パラメータと速度論解析Ⅱ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
	感染の制御と薬物治療 呼吸器系疾患の薬物治療 消化器系疾患、腎疾患の薬物治療	呼吸器・消化器・皮膚・感覚器疾患と感染症の薬物治療	3科目を1科目で対応。さらに不足分の授業コマを別途履修すること。
	精神・神経系疾患の薬物治療	神経・精神・筋・骨・泌尿器・生殖器疾患の薬物治療	
	循環器系疾患の薬物治療	循環器・血液・造血管疾患の薬物治療	
	内分泌系疾患の薬物治療	代謝・内分泌・免疫・アレルギー疾患の薬物治療	2科目を1科目で対応。さらに不足分の授業コマを別途履修すること。
	免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の薬物治療		
	悪性腫瘍の薬物治療 緩和医療における薬物治療	悪性腫瘍の薬物治療と緩和医療	2科目を1科目で対応。さらに不足分の授業コマを別途履修すること。
	社会貢献活動Ⅰ	社会貢献活動	
	薬理・薬物動態実習	薬理学実習 薬物動態実習	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。 ※2026年度以降3年次在籍生は4年次進級に用いない（5年次への進級に用いる）。
	臨床実務実習事前学習Ⅰ 臨床実務実習事前学習Ⅱ	臨床実務実習事前学習	2科目を1科目で対応。
	医療現場で役立つ物理学 医療現場で役立つ化学 医療現場で役立つ生物学	医療現場で役立つ物理学・化学・生物学	3科目を1科目で対応。さらに不足分の授業コマを別途履修すること。
選択科目	多職種連携Ⅰ	多職種連携	

- 注意 1 付表2に対応を示した授業科目以外で、別表第2と別表第1における名称が同じ授業科目については、そのまま対応させる。
 ア 「物理化学演習」については、2024年度以降1年次在籍生は2年次への進級に用いない（3年次への進級に用いる）。
 イ 「分子の構造」「有機化学反応」「官能基の性質」「医薬品の定性定量分析」「生体防御と免疫」については、別表1の同一名称の科目の指定された授業コマを履修すること。
 ウ 「薬物治療に役立つ情報」「副作用学演習」「調剤学実習」については、別表1の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- 2 別表第1及び付表2のいずれにも記載がない授業科目については、原則として別途開講する。

履修条件一覧

【履修規程別表第2適用者】

(必修科目)

科目名称	履修条件
災害薬学	臨床実務実習に11週以上出席していること
新潟地域でよく見られる疾病	臨床実務実習に11週以上出席していること
感染の制御と薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
循環器系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
精神・神経系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
呼吸器系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
消化器系疾患、腎疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
内分泌系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
悪性腫瘍の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
緩和医療における薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
先端医療	臨床実務実習に11週以上出席していること
薬剤師と法律・制度	臨床実務実習に11週以上出席していること
薬剤使用評価	臨床実務実習に11週以上出席していること
臨床実務実習	薬学共用試験に合格し、臨床実務実習開始直近の臨床実務直前演習を受講すること
医療現場で役立つ物理学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ化学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ生物学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ衛生薬学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ薬理学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ薬剤学	臨床実務実習に11週以上出席していること
薬学総括演習Ⅱ	臨床実務実習の単位を修得していること

(選択科目)

科目名称	履修条件
学術英語	別途指示
海外語学研修	別途指示
食品の安全管理	感染症と微生物Ⅰ、感染症と微生物Ⅱの単位を修得していること
香粧品の科学	別途指示
地域医療を学ぶ	別途指示
海外医療事情を学ぶ	別途指示
多職種連携Ⅰ	別途指示
多職種連携Ⅱ	別途指示

別表第3 [令和3年度(2021年度)及び令和4年度(2022年度)の1年次入学生、並びに令和5年度(2023年度)の2年次に編入学等を行った学生に適用]
(必修科目)

区分		授業科目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件	
				1年		2年		3年		4年		5年		6年			
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
教養科目	外国語科目	英語Ⅰ	1	1											15単位		
		英語Ⅱ	1	1													
		英語Ⅲ	1		1												
		英語Ⅳ	1			1											
		英語Ⅴ	1				1										
		英語Ⅵ	1					1									
	自然科学系科目	微分積分	1.5	1.5													
		情報リテラシ	1.5	1.5													
		物理学	1.5	1.5													
		統計学	1.5		1.5												
		数学演習	0.5	0.5													
		物理学演習	0.5	0.5													
		化学演習	0.5	0.5													
		生物学演習	0.5	0.5													
	体育科目	スポーツⅠ	0.5	0.5													
		スポーツⅡ	0.5		0.5												
専門科目	薬学導入科目	薬学に親しむ	1	1												15単位	
		フレッシュヤーズセミナー	0.5	0.5													
	合科目	くすりと科学Ⅰ	0.5	0.5													
		くすりと科学Ⅱ	0.5		0.5												
	基礎	化学平衡	1.5	1.5													
		電磁波・放射線と物質の相互作用	1.5		1.5												
		物質のエネルギーと物理平衡	1.5		1.5												
		物質の変化と反応速度	1.5			1.5											
		分子の構造	1.5	1.5													
		有機化学反応	1.5		1.5												
		官能基の性質	1.5			1.5											
		機器を用いる解析法	1.5			1.5											
		化学物質の構造決定	1.5				1.5										
		医薬品の定性定量分析	1.5				1.5										
		生体分子のコアとパーツ	1.5					1.5									
		薬用植物と生薬	1.5					1.5									
		生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5								
		細胞の構造と機能	1.5	1.5													
	薬学	体の構造と機能	1.5		1.5												
		感染症と微生物Ⅰ	1.5		1.5												
		感染症と微生物Ⅱ	1.5			1.5											
		生命情報と遺伝子	1.5			1.5											
		生体防御と免疫	1.5				1.5										
		栄養の摂取と代謝	1.5				1.5										
		生体の情報伝達	1.5					1.5									
		物理化学演習	0.5		0.5												
		有機化学演習Ⅰ	0.5		0.5												
		有機化学演習Ⅱ	0.5			0.5											
	科学	生物化学演習Ⅰ	0.5			0.5											
		生物化学演習Ⅱ	0.5				0.5										
		分析化学演習	0.5				0.5										
		基礎科学実習Ⅰ	0.5	0.5													
		基礎科学実習Ⅱ	0.5	0.5													
		基礎科学実習Ⅲ	1		1												
		基礎科学実習Ⅳ	1		1												
		薬品有機化学実習	1			1											
		人体構造学実習	0.5			0.5											
		微生物学実習	1			1											
	目	医薬品分析実習	1				1										
		生化学実習	1				1										
		生薬化学実習	0.5					0.5									

区分		授業科目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件		
				1年		2年		3年		4年		5年		6年				
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
専門科目	衛生薬学科目	疫学と保健・医療統計	1.5			1.5												
		生活環境と健康	1.5			1.5												
		化学物質と毒性	1.5					1.5										
		災害薬学	1											1				
		環境衛生実習	1					1										
	医療薬学	病態生理	1.5			1.5												
		薬理作用と薬物治療の基礎	1.5			1.5												
		症候と検査・疾患	1.5					1.5										
		薬物動態と薬物間相互作用	1.5					1.5										
		循環器系、血液・造血管系の疾患と薬	1.5					1.5										
		神経系の疾患と薬	1.5					1.5										
		感染症と薬	1.5					1.5										
		呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5					1.5										
		製剤の科学	1.5					1.5										
		製剤の形状と機能	1.5						1.5									
		薬物動態パラメータと速度論解析	1.5						1.5									
		臨床研究デザインと生物統計	1.5						1.5									
		腎泌尿生殖器系・感覚器・皮膚の疾患と薬	1.5						1.5									
		免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	1.5						1.5									
		代謝系・内分泌系、骨・関節の疾患と薬	1.5						1.5									
		がんと薬	1.5							1.5								
		代表的な疾患における薬物治療の最適化	1.5							1.5								
		薬物治療に役立つ情報	1.5							1.5								
		最新医療を学ぶ	0.5									0.5						
		患者の権利と法規範	0.5						0.5									
	医療人マインドと倫理観の醸成	1	1															
	薬害・医療事故被害者から学ぶ	0.5			0.5													
	薬剤師が備える倫理観	0.5					0.5											
	多職種間連携における薬剤師の役割	1						1										
	社会保障制度と医療経済	1							1									
	薬事関連法規	1							1									
	地域医療における薬剤師	1							1									
	セルフメディケーションと一般医薬品	1							1									
	個別化医療と薬物治療モニタリング	1							1									
	新潟地域でよく見られる疾病	1													1			
	感染の制御と薬物治療	1														1		
	循環器系疾患の薬物治療	1													1			
	精神・神経系疾患の薬物治療	1													1			
	呼吸器系疾患の薬物治療	1													1			
	消化器系疾患、腎疾患の薬物治療	1													1			
	内分泌系疾患の薬物治療	1													1			
	免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖系疾患の薬物治療	1														1		
	悪性腫瘍の薬物治療	1														1		
	緩和医療における薬物治療	1													1			
	先端医療	1													1			
	薬剤師と法律・制度	1													1			
	薬剤使用評価	1													1			
	社会貢献活動Ⅰ	1		1														
	社会貢献活動Ⅱ	0.5										0.5						
	コミュニケーションを学ぶ	0.5	0.5															
	早期体験学習Ⅰ	1		1														
	早期体験学習Ⅱ	1			1													
	薬理・病態・薬物治療演習Ⅰ	0.5					0.5											
	薬理・病態・薬物治療演習Ⅱ	0.5						0.5										
	副作用学演習	0.5							0.5									
身体所見実習	0.5					0.5												
製剤学実習	1					1												
薬理・薬物動態実習	1						1											
医薬品医療用具の供給と適正使用	1							1										
患者応対と服薬指導	0.5							0.5										
調剤学実習	1.5							1.5										
臨床実務実習事前学習Ⅰ	3								3									
臨床実務実習事前学習Ⅱ	2								2									
臨床実務直前演習	1								1									

区分		授 業 科 目	単位 数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
専 門 科 目	医療薬学 科目	臨床実務実習	20							20					159.5単位	
		医療現場で役立つ物理学	0.5									0.5				
		医療現場で役立つ化学	0.5									0.5				
		医療現場で役立つ生物学	0.5									0.5				
		医療現場で役立つ衛生薬学	0.5									0.5				
		医療現場で役立つ薬理学	0.5									0.5				
		医療現場で役立つ薬剤学	0.5									0.5				
	科目 総合	卒業研究	10						10							
		薬学総括演習Ⅰ	4						4							
		薬学総括演習Ⅱ	5										5			

- 備考 1 網掛けした授業科目は、実習・実技・演習科目を表し、1単位について、実習・実技科目は原則23回で構成され、演習科目は原則15回で構成される。
- 2 1単位について、網掛けした授業科目以外の科目は原則8回で構成されるが、外国語科目だけは原則12回で構成される。
- 3 必修科目の一部については履修に条件が付される場合がある。

(選択科目)

区分		授 業 科 目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
教 養 科 目	外国語科目	ドイツ語	2	2											外国語科目、人文社会系科目、自然科学系科目をそれぞれ1単位以上必ず含み、合計5.5単位以上修得すること	
		中国語	2	2												
		ロシア語	2	2												
		ロシア語	2	2												
		学術英語	1		1											
		海外語学研修	1		1											
		薬学英語Ⅰ	0.5					0.5								
		薬学英語Ⅱ	0.5							0.5						
		薬学英語Ⅲ	0.5									0.5				
	人文社会系科目	経済学	1	1												
		法学	1	1												
		社会心理学	1		1											
		マス・メディア論	1	1												
		哲学	1		1											
		新潟の風土と歴史	1		1											
		新潟の食文化	1	1												
		文化人類学	1		1											
		植物学	1		1											
	自然科学系科目	気象学	1		1											
		昆虫と人のかかわり	1		1											
		大地の構造と地震	1	1												
		プログラミング基礎	2			2										
		データサイエンスⅠ	1		1											
		データサイエンスⅡ	1			1										
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2			2										
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2			2										
専 門 科 目		基礎薬学系科目	リード化合物の創製	1				1							基礎薬学系科目2単位以上、専門医療薬学系科目2単位以上をそれぞれ必ず含み、合計6単位以上修得すること	
	目的化合物をつくる		1				1									
	医薬品の歴史		1				1									
	運動生理		1				1									
	香粧品の科学		1					1								
	新薬の開発		1						1							
	食品の安全管理		1						1							
	医薬品の開発と治験		1				1									
	病気と栄養		1						1							
	専門医療薬学系科目	スポーツ薬学	1						1							
		遺伝情報の臨床応用	1						1							
		予防医療とプライマリケア	1						1							
		科学技術の進歩と医療倫理	1						1							
		サプリメントと保健機能食品の科学	1										1			
		介護保険制度と医療福祉サービス	1											1		
		臨床心理学	1											1		
		薬局の役割と経営	1											1		
		アロマセラピー	1			1										
	応用生命科学部開講科目	地域医療の実践	1				1									
		多職種連携Ⅰ	1						1							
		多職種連携Ⅱ	1						1							
		海外医療事情を学ぶ	1								1					
		#環境科学Ⅰ	1		1											
		#化学工業とグリーンケミストリー	1				1									
		#発酵醸造学	1						1							
		#食品製造学	1								1					
#動物バイオテクノロジー		1								1						
#食品微生物学		1								1						
#微生物バイオテクノロジー		1								1						
#食品化学		1								1						
#バイオインフォマティクス		1								1						
#構造生物学とタンパク質工学	1								1							

- 備考 1 選択科目の一部については、開講しない場合がある。
- 2 1単位について、応用生命科学部開講科目以外の科目は原則8回で構成されるが、外国語科目だけは原則12回で構成される。ただし、実習科目については、網掛けした実習科目の授業回数に準ずるものとする。
- 3 #は応用生命科学部開講科目を表し、原則15回で構成される。当該科目の開講学期等については、応用生命科学部の開講状況により変更となる場合がある。
- 4 選択科目の一部については、履修に条件が付されることがある。

別表第3付表1 卒業要件単位区分表

区 分	教 養 科 目	専 門 科 目	合 計
必 修 科 目	15単位	159.5単位	174.5単位
選 択 科 目	5.5単位以上	6単位以上	11.5単位以上
合 計	20.5単位以上	165.5単位以上	186単位以上

別表第3付表2－1

別表第3と別表第2の授業科目の対応表

区分	別表第3の授業科目	別表第2の授業科目	備 考
必修科目	情報リテラシ	情報リテラシー基礎	
	微分積分	基礎数学	
	スポーツⅠ スポーツⅡ	スポーツ	2科目を1科目で対応
選択科目	データサイエンスⅠ データサイエンスⅡ	情報リテラシー応用	選択2科目を必修1科目で対応
	介護保険制度と医療福祉サービス	多様化する福祉課題と地域共生社会	
	地域医療の実践	地域医療を学ぶ	

- 注意 1 付表2に対応を示した授業科目以外で、別表第3と別表第2における名称が同じ授業科目については、そのまま対応させる。
 ア 「製剤学実習」については別表1の同一名称の科目に加えて不足分（0.5単位）の授業コマを履修すること。
 2 別表第2及び付表2－1のいずれも記載がない授業科目については、原則として別途開講する。

別表第3付表2-2

別表第3と別表第1授業科目の対応表

区分	別表第3の授業科目	別表第1の授業科目	備 考
必修科目	情報リテラシ	情報リテラシー基礎	
	微分積分	基礎数学	
	スポーツⅠ スポーツⅡ	スポーツ	2科目を1科目で対応。
	物理学	物理学Ⅰ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
		物理学Ⅱ	
	化学平衡	化学平衡Ⅰ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
		化学平衡Ⅱ	
	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能Ⅰ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
		細胞の構造と機能Ⅱ	
	機器を用いる解析法	機器を用いる分析法	
	栄養の摂取と代謝	生命活動と代謝	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。 ※2025年度以降2年次在籍生は3年次進級に用いない（4年次への進級に用いる）。
		栄養と健康	
	基礎科学実習Ⅳ	基礎科学実習Ⅱ	
	薬理作用と薬物治療の基礎	タンパク質の構造と機能	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
		薬理・薬物治療の総論	
	薬物動態と薬物間相互作用	薬物動態と薬物間相互作用Ⅰ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
		薬物動態と薬物間相互作用Ⅱ	
	薬物動態パラメータと速度論解析	薬物動態パラメータと速度論解析Ⅰ	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。
		薬物動態パラメータと速度論解析Ⅱ	
	感染の制御と薬物治療	呼吸器・消化器・皮膚・感覚器疾患と感染症の薬物治療	3科目を1科目で対応。さらに不足分の授業コマを別途履修すること。
	呼吸器系疾患の薬物治療		
	消化器系疾患、腎疾患の薬物治療		
	精神・神経系疾患の薬物治療	神経・精神・筋・骨・泌尿器・生殖器疾患の薬物治療	
	循環器系疾患の薬物治療	循環器・血液・造血器疾患の薬物治療	
	内分泌系疾患の薬物治療	代謝・内分泌・免疫・アレルギー疾患の薬物治療	2科目を1科目で対応。さらに不足分の授業コマを別途履修すること。
	免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の薬物治療		
	悪性腫瘍の薬物治療	悪性腫瘍の薬物治療と緩和医療	2科目を1科目で対応。さらに不足分の授業コマを別途履修すること。
	緩和医療における薬物治療		
	社会貢献活動Ⅰ	社会貢献活動	
	薬理・薬物動態実習	薬理学実習	1科目を2科目で対応。両科目のそれぞれ指定された授業コマを履修すること。 ※2026年度以降3年次在籍生は4年次進級に用いない（5年次への進級に用いる）。
		薬物動態実習	
	臨床実務実習事前学習Ⅰ	臨床実務実習事前学習	2科目を1科目で対応。
	臨床実務実習事前学習Ⅱ		
	医療現場で役立つ物理学	医療現場で役立つ物理学・化学・生物学	3科目を1科目で対応。さらに不足分の授業コマを別途履修すること。
	医療現場で役立つ化学		
	医療現場で役立つ生物学		
選択科目	データサイエンスⅠ データサイエンスⅡ	情報リテラシー応用	選択2科目を必修1科目で対応。
	介護保険制度と医療福祉サービス	多様化する福祉課題と地域共生社会	
	地域医療の実践	地域医療を学ぶ	
	多職種連携Ⅰ	多職種連携	

- 注意 1 付表2-1、付表2-2に対応を示した授業科目以外で、別表第1、第2及び第3における名称が同じ授業科目については、そのままだ対応させる。
- ア 「物理化学演習」については、2024年度以降1年次在籍生は2年次への進級に用いない（3年次への進級に用いる）。
- イ 「分子の構造」「有機化学反応」「官能基の性質」「医薬品の定性定量分析」「生体防御と免疫」については、別表1の同一名称の科目の指定された授業コマを履修すること。
- ウ 「薬物治療に役立つ情報」「副作用学演習」「製剤学実習」「調剤学実習」については、別表1の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- 2 別表第1及び第2、付表2-1、付表2-2のいずれも記載がない授業科目については、原則として別途開講する。

履修条件一覧

【履修規程別表第3適用者】

(必修科目)

科目名称	履修条件
災害薬学	臨床実務実習に11週以上出席していること
新潟地域でよく見られる疾病	臨床実務実習に11週以上出席していること
感染の制御と薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
循環器系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
精神・神経系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
呼吸器系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
消化器系疾患、腎疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
内分泌系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
悪性腫瘍の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
緩和医療における薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
先端医療	臨床実務実習に11週以上出席していること
薬剤師と法律・制度	臨床実務実習に11週以上出席していること
薬剤使用評価	臨床実務実習に11週以上出席していること
臨床実務実習	薬学共用試験に合格し、臨床実務実習開始直近の臨床実務直前演習を受講すること
医療現場で役立つ物理学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ化学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ生物学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ衛生薬学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ薬理学	臨床実務実習に11週以上出席していること
医療現場で役立つ薬剤学	臨床実務実習に11週以上出席していること
薬学総括演習Ⅱ	臨床実務実習の単位を修得していること

(選択科目)

科目名称	履修条件
学術英語	別途指示
海外語学研修	別途指示
食品の安全管理	感染症と微生物Ⅰ、感染症と微生物Ⅱの単位を修得していること
香粧品の科学	別途指示
地域医療の実践	別途指示
海外医療事情を学ぶ	別途指示
多職種連携Ⅰ	別途指示
多職種連携Ⅱ	別途指示
環境科学Ⅰ	原則として1、2年次学生を対象とする。

別表第4 [平成29年度(2017年度)から令和2年度(2020年度)までの1年次入学生及び2年次に編入した学生、並びに令和4年度(2022年度)に3年次に編入した学生に適用]
(必修科目)

区分		授業科目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1年		2年		3年		4年		5年		6年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
教養科目	外国語科目	英語Ⅰ	0.5	0.5												8.5単位
		英語Ⅱ	0.5		0.5											
		英語Ⅲ	0.5			0.5										
		英語Ⅳ	0.5				0.5									
		英語Ⅴ	0.5					0.5								
		英語Ⅵ	0.5						0.5							
		薬学英語Ⅰ	0.5							0.5						
		薬学英語Ⅱ	0.5									0.5				
		薬学英語Ⅲ	0.5											0.5		
	系自然科学科目	微分積分	1	1												
		情報リテラシ	1	1												
		統計学	1		1											
		体育科目	スポーツⅠ	0.5	0.5											
			スポーツⅡ	0.5		0.5										
専門科目	薬学導合科目	薬学に親しむ	1		1											
		フレッシュャーズセミナー	0.5	0.5												
	薬学総合科目	くすりと科学Ⅰ	0.5	0.5												
		くすりと科学Ⅱ	0.5			0.5										
	基礎薬学	化学平衡	1.5	1.5												
		電磁波・放射線と物質の相互作用	1.5		1.5											
		物質のエネルギーと物理平衡	1.5		1.5											
		物質の変化と反応速度	1.5			1.5										
		分子の構造	1.5	1.5												
		有機化学反応	1.5		1.5											
		官能基の性質	1.5			1.5										
		化学物質の構造解析	1.5			1.5										
		化学物質の構造決定	1.5				1.5									
		医薬品の定性定量分析	1.5				1.5									
		生体分子のコアとパーツ	1.5					1.5								
		薬用植物と生薬	1.5					1.5								
		生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5							
		体の構造と機能	1.5	1.5												
		細胞の構造と機能	1.5	1.5												
		感染症と微生物Ⅰ	1.5		1.5											
		薬学	生命情報と遺伝子	1.5			1.5									
			感染症と微生物Ⅱ	1.5			1.5									
	生体防御と免疫		1.5				1.5									
	生体の情報伝達		1.5					1.5								
	栄養の摂取と代謝		1.5				1.5									
	基礎科学実習Ⅰ		0.5	0.5												
	基礎科学実習Ⅱ		0.5	0.5												
	基礎科学実習Ⅲ		1		1											
	基礎科学実習Ⅳ		1		1											
	薬品有機化学実習		1			1										
	人体構造学実習		0.5			0.5										
	微生物学実習		1			1										
	薬学		医薬品分析実習	1				1								
		生化学実習	1				1									
		生薬化学実習	0.5					0.5								
		衛生薬学科目	疫学と保健・医療統計	1.5			1.5									
			地球・生活環境と健康	1.5			1.5									
			化学物質と毒性	1.5					1.5							
			災害薬学	1										1		
			環境衛生実習	1					1							
		医療薬学科目	病態生理	1.5			1.5									
			症候と検査・疾患	1.5					1.5							
			新潟地域でよく見られる疾病	1.5										1.5		
			薬理作用と薬物治療の基礎	1.5				1.5								
			薬物の体内動態	1.5					1.5							
	循環器系、血液・造血器系の疾患と薬		1.5					1.5								

区 分	授 業 科 目	単 位 数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
専 門 科 目	医 療 薬 学	神経系の疾患と薬	1.5				1.5								
		感染症と薬	1.5				1.5								
		薬物動態の解析	1.5					1.5							
		臨床研究デザインと医薬品の評価	1.5					1.5							
		製剤の科学	1.5				1.5								
		呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5				1.5								
		泌尿器系・生殖器系・感覚器・皮膚の疾患と薬	1.5					1.5							
		免疫系・炎症・アレルギー・骨・関節の疾患と薬	1.5					1.5							
		代謝系・内分泌系の疾患と薬	1.5					1.5							
		がんと薬	1.5						1.5						
		代表的な疾患における薬物治療の最適化	1.5						1.5						
		個別化医療と薬物治療	1.5						1.5						
		薬物治療に役立つ情報	1.5						1.5						
		製剤の形状と機能	1.5				1.5								
		最新医療を学ぶ	0.5						0.5						
		神経系疾患、脳血管障害の薬物治療	1										1		
		感染の制御と薬物治療	1											1	
		循環器系疾患の薬物治療	1											1	
	内分泌系疾患、腎疾患の薬物治療	1											1		
	精神神経系疾患の薬物治療	1											1		
	悪性腫瘍の薬物治療	1												1	
	緩和医療における薬物治療	1											1		
	診断と治療の先端医療	1.5											1.5		
	身体所見実習	0.5				0.5									
	製剤学実習	1				1									
	薬物治療学実習	1					1								
	臨 床 薬 学	社会保障制度と医療経済	1						1						
		薬事関連法規	1						1						
		地域医療における薬剤師	1						1						
		多職種間連携における薬剤師の役割	1				1								
		予防医療とプライマリケア	1						1						
		セルフメディケーションと一般医薬品	1						1						
		医薬品の供給と安全管理	1						1						
		薬剤師と法律・制度	1										1		
		呼吸器系・消化器系疾患の処方解析	1										1		
		免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の処方解析	1											1	
		薬剤使用評価	1										1		
		地域におけるボランティア活動	1	1											
		生命倫理Ⅰ	0.5	0.5											
		コミュニケーションを学ぶ	0.5	0.5											
		早期体験学習Ⅰ	1		1										
		地域住民の健康状態を知る	0.5	0.5											
		早期体験学習Ⅱ	1			1									
		患者から学ぶ医療倫理	0.5			0.5									
		患者の権利と法規範	0.5				0.5								
		医療人としての倫理観	0.5				0.5								
		生命倫理Ⅱ	0.5						0.5						
		医療用具の適正使用	0.5						0.5						
		患者応対と服薬指導	1						1						
		調剤学実習	1.5						1.5						
		臨床実務実習事前学習Ⅰ	5							5					
		臨床実務実習事前学習Ⅱ	2.5							2.5					
		臨床実務直前演習	1							1					
		臨床実務実習	20							20					
		卒業研究	10							10					
	薬学総括演習Ⅰ	2.5							2.5						
	薬学総括演習Ⅱ	5												5	
総合科目															

156.5単位

- 備考 1 網掛けした授業科目は、実習・実技・(実習扱いの)演習科目を表す。
- 2 必修科目の一部については履修に条件が付される場合がある。
- 3 専門必修科目「地球・生活環境と健康」については3年次への進級基準には用いない(平成29年度から令和元年度までに1年次入学または2年次に編入学等を行った学生に適用)。
- 4 専門必修科目「地域住民の健康状態を知る」については、付表2の適用のもとで別表第2の授業科目を読替え履修しなければならない場合、5・6年次への進級基準には用いない。

(選択必修科目)

区 分	授 業 科 目	単 位 数	配当学年・学期と単位数												グ ル ー プ	卒業の要件
			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年			
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	数学演習	1	1												①	各グループ からそれぞれ1単位以上 修得すること
	基礎数学演習	1	1													
	化学演習	1	1												②	
	基礎化学演習	1	1													
	生物学演習	1	1												③	
	基礎生物学演習	1	1													
	物理学演習	1	1												④	
	基礎物理学演習	1	1													
	物理化学演習 A	1		1											⑤	
	物理化学演習 B	1		1												
	有機化学演習 I A	1		1											⑥	
	有機化学演習 I B	1		1												
	有機化学演習 II A	1			1										⑦	
	有機化学演習 II B	1			1											
	生物化学演習 I A	1			1										⑧	
	生物化学演習 I B	1			1											
	生物化学演習 II A	1				1									⑨	
	生物化学演習 II B	1				1										
	分析化学演習 A	1				1									⑩	
	分析化学演習 B	1				1										
	処方解析演習 I A	1					1								⑪	
	処方解析演習 I B	1					1									
	処方解析演習 II A	1						1							⑫	
	処方解析演習 II B	1						1								
	処方解析演習 III A	1							1						⑬	
	処方解析演習 III B	1							1							
	医療現場で役立つ物理学	1									1				⑭	2 単位以上 修得すること
	医療現場で役立つ化学	1									1					
	医療現場で役立つ生物学	1									1					
	医療現場で役立つ衛生薬学	1									1					
	医療現場で役立つ薬理学	1									1					

備考 1 選択必修グループ内の科目選択には履修に条件が付されることがある。

(選択科目)

区分		授 業 科 目	単位数	配当学年・学期と単位数												卒業の要件
				1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
教 養 科 目	外国語科目	ドイツ語Ⅰ	0.5	0.5											人文社会系科目1単位以上、自然科学系科目1単位以上をそれぞれ必ず含み、3単位以上修得すること ただし、ドイツ語、中国語、ハングル、ロシア語はそれぞれⅠとⅡの組合せで修得すること	
		ドイツ語Ⅱ	0.5		0.5											
		中国語Ⅰ	0.5	0.5												
		中国語Ⅱ	0.5		0.5											
		ハングルⅠ	0.5	0.5												
		ハングルⅡ	0.5		0.5											
		ロシア語Ⅰ	0.5	0.5												
		ロシア語Ⅱ	0.5		0.5											
		学術英語Ⅰ	0.5			0.5										
		学術英語Ⅱ	0.5			0.5										
		海外語学研修	1			1										
	人文社会系科目	経済学	1	1												
		法学	1	1												
		社会心理学	1		1											
		マス・メディア論	1	1												
		哲学	1		1											
		新潟の風土と歴史	1		1											
		新潟の食文化	1	1												
		文化人類学	1		1											
	自然科学系科目	植物学	1		1											
		気象学	1		1											
		昆虫と人のかかわり	1		1											
		大地の構造と地震	1	1												
		プログラミング基礎	2			2										
		情報科学演習	0.5		0.5											
		情報処理演習	0.5			0.5					1					
専 門 科 目	衛生・臨床薬学系科目	運動生理	1				1								衛生・臨床薬学系科目、専門臨床系科目をそれぞれ1単位以上必ず含み、合計3単位以上修得すること	
		食品の安全管理	1					1								
		サプリメントと保健機能食品の科学	1									1				
		病気と栄養	1						1							
		スポーツ薬学	1						1							
		医薬品の開発と治験	1				1									
		アロマセラピー	1			1										
		香粧品の科学	1					1								
	基礎科学系科目	目的化合物をつくる	1				1									
		医薬品の歴史	1				1									
		遺伝情報の臨床応用	1						1							
		リード化合物の創製	1				1									
		新薬の開発	1						1							
	専門臨床系科目	介護保険制度と医療福祉サービス	1										1			
		臨床心理学	1										1			
		薬局の役割と経営	1										1			
		地域医療の実践	1					1								
		海外医療事情を学ぶ	1								1					
		多職種連携Ⅰ	1						1							
多職種連携Ⅱ		1							1							
応用生命科学部開講科目	#環境科学Ⅰ	1		1												
	#化学工業とグリーンケミストリー	1					1									
	#発酵醸造学	1						1								
	#食品製造学	1									1					
	#動物バイオテクノロジー	1								1						
	#食品微生物学	1								1						
	#微生物バイオテクノロジー	1								1						
	#食品化学	1								1						
	#バイオイノベーション	1								1						
	#構造生物学とタンパク質工学	1								1						

- 備考 1 選択科目の一部については、開講しない場合がある。
- 2 #は応用生命科学部開講科目を表し、原則15回で構成される。当該科目の開講学期等については、応用生命科学部の開講状況により変更となる場合がある。
- 3 選択科目の一部については、履修に条件が付されることがある。

別表第4付表1 卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目	合 計
必 修 科 目	8.5単位	156.5単位	165単位
選択必修科目	—	15単位以上	15単位以上
選 択 科 目	3単位以上	3単位以上	6単位以上
合 計	11.5単位以上	174.5単位以上	186単位以上

別表第4付表2

別表第4と別表第3の授業科目の対応表

区分	別表第4の授業科目	別表第3の授業科目	備 考
必修科目	化学物質の構造解析	機器を用いる解析法	
	地球・生活環境と健康	生活環境と健康	
	薬物の体内動態	薬物動態と薬物間相互作用	
	薬物動態の解析	薬物動態パラメータと速度論解析	
	臨床研究デザインと医薬品の評価	臨床研究デザインと生物統計	
	泌尿器系・生殖器系・感覚器・皮膚の疾患と薬	腎泌尿生殖器系・感覚器・皮膚の疾患と薬	
	免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	
	代謝系・内分泌系の疾患と薬	代謝系・内分泌系、骨・関節の疾患と薬	
	地域におけるボランティア活動	社会貢献活動Ⅰ	
	地域住民の健康状態を知る	社会貢献活動Ⅱ	
	生命倫理Ⅰ	医療人マインドと倫理観の醸成	
	患者から学ぶ医療倫理	薬害・医療事故被害者から学ぶ	不足分の授業コマを履修すること
	医療人としての倫理観	薬剤師が備える倫理観	不足分の授業コマを履修すること
	生命倫理Ⅱ	科学技術の進歩と医療倫理	
	薬物治療学実習	薬理・薬物動態実習	
	個別化医療と薬物治療	個別化医療と薬物治療モニタリング	不足分の授業コマを履修すること
	精神神経系疾患の薬物治療	精神・神経系疾患の薬物治療	
	内分泌系疾患、腎疾患の薬物治療 呼吸器系・消化器系疾患の処方解析	呼吸器系疾患の薬物治療 消化器系疾患、腎疾患の薬物治療 内分泌系疾患の薬物治療	2科目を3科目で対応 (別表第2の3科目は受講部分を指示する)
	診断と治療の先端医療	先端医療	不足分の授業コマを履修すること
	医薬品の供給と安全管理 医療用具の適正使用	医薬品医療用具の供給と適正使用	2科目を1科目で対応
	免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の処方解析	免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の薬物治療	
	物理化学演習A	物理化学演習	不足分の授業コマを履修すること
	有機化学演習ⅠA	有機化学演習Ⅰ	不足分の授業コマを履修すること
	有機化学演習ⅡA	有機化学演習Ⅱ	不足分の授業コマを履修すること
	生物化学演習ⅠA	生物化学演習Ⅰ	不足分の授業コマを履修すること
	生物化学演習ⅡA	生物化学演習Ⅱ	不足分の授業コマを履修すること
	分析化学演習A	分析化学演習	不足分の授業コマを履修すること
	処方解析演習ⅠA	薬理・病態・薬物治療演習Ⅰ	不足分の授業コマを履修すること
	処方解析演習ⅡA	薬理・病態・薬物治療演習Ⅱ	不足分の授業コマを履修すること
	処方解析演習ⅢA	副作用学演習	不足分の授業コマを履修すること
選択科目	学術英語Ⅰ、学術英語Ⅱ	学術英語	2科目を1科目で対応
	ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ	ドイツ語	2科目を1科目で対応
	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ	中国語	2科目を1科目で対応
	ハングルⅠ、ハングルⅡ	コリア語	2科目を1科目で対応
	ロシア語Ⅰ、ロシア語Ⅱ	ロシア語	2科目を1科目で対応
	情報科学演習	データサイエンスⅠ	
	情報処理演習	データサイエンスⅡ	

- 注意 1 付表2に対応を示した授業科目以外で、別表第4と別表第3における名称が同じ授業科目については、そのまま対応させる。
- ア 「数学演習」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- イ 「化学演習」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- ウ 「生物学演習」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- エ 「物理学演習」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- オ 「医療現場で役立つ物理学」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- カ 「医療現場で役立つ化学」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- キ 「医療現場で役立つ生物学」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- ク 「医療現場で役立つ衛生薬学」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- ケ 「医療現場で役立つ薬理学」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- コ 「新潟地域でよく見られる疾病」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- サ 「患者応対と服薬指導」については、別表第3の同一名称の科目に加えて不足分の授業コマを履修すること。
- 2 別表第3及び付表2のいずれも記載がない授業科目については、原則として別途開講する。

履修条件一覧

【履修規程別表第 4 適用者】

(必修科目)

科目名称	履修条件
災害薬学	臨床実務実習に11週以上出席していること
神経系疾患、脳血管障害の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
感染の制御と薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
循環器系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
内分泌系疾患、腎疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
精神神経系疾患の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
悪性腫瘍の薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
緩和医療における薬物治療	臨床実務実習に11週以上出席していること
診断と治療の先端医療	臨床実務実習に11週以上出席していること
薬剤師と法律・制度	臨床実務実習に11週以上出席していること
呼吸器系・消化器系疾患の処方解析	臨床実務実習に11週以上出席していること
免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の処方解析	臨床実務実習に11週以上出席していること
薬剤使用評価	臨床実務実習に11週以上出席していること
臨床実務実習	薬学共用試験に合格し、臨床実務実習開始直近の臨床実務直前演習を受講すること
薬学総括演習Ⅱ	臨床実務実習の単位を修得していること

(選択科目)

科目名称	履修条件
ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰの単位を修得していること
中国語Ⅱ	中国語Ⅰの単位を修得していること
ハンガールⅡ	ハンガールⅠの単位を修得していること
ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰの単位を修得していること
学術英語Ⅰ	別途指示
学術英語Ⅱ	別途指示
海外語学研修	原則として2～4年次学生を対象とする・別途指示
情報科学演習	別途指示
食品の安全管理	感染症と微生物Ⅰ、感染症と微生物Ⅱの単位を修得していること
香粧品の科学	別途指示
地域医療の実践	別途指示
海外医療事情を学ぶ	別途指示
多職種連携Ⅰ	別途指示
多職種連携Ⅱ	別途指示
環境科学Ⅰ	原則として1、2年次学生を対象とする。

(選択必修科目)

備考	科目名称	履修基準	対応科目
	数学演習	4月Placement Test (数学・物理統一) により科目決定	高等学校「数学Ⅲ」
	基礎数学演習		
	化学演習	4月Placement Test (化学) により科目決定	高等学校「化学」
	基礎化学演習		
	生物学演習	4月Placement Test (生物) により科目決定	高等学校「生物」
	基礎生物学演習		
	物理学演習	4月Placement Test (数学・物理統一) により科目決定	高等学校「物理」
	基礎物理学演習		
★	物理化学演習 A	「化学平衡」の成績により推奨科目決定	「化学平衡」・「物質のエネルギーと物理平衡」・「電磁波・放射線と物質の相互作用」
	物理化学演習 B		
★	有機化学演習 I A	「分子の構造」の成績により推奨科目決定	「分子の構造」・「有機化学反応」
	有機化学演習 I B		
★	有機化学演習 II A	「有機化学反応」の成績により推奨科目決定	「有機化学反応」・「官能基の性質」
	有機化学演習 II B		
★	生物化学演習 I A	「体の構造と機能」・「細胞の構造と機能」の成績により推奨科目決定	「体の構造と機能」・「細胞の構造と機能」・「生命情報と遺伝子」
	生物化学演習 I B		
★	生物化学演習 II A	「感染症と微生物Ⅰ」・「感染症と微生物Ⅱ」の成績により推奨科目決定	「感染症と微生物Ⅰ」・「感染症と微生物Ⅱ」・「生体防御と免疫」
	生物化学演習 II B		
★	分析化学演習 A	「化学物質の構造解析」の成績により推奨科目決定	「化学物質の構造解析」・「医薬品の定性定量分析」
	分析化学演習 B		
★	処方解析演習 I A	「病態生理」・「薬理作用と薬物治療の基礎」の成績により推奨科目決定	「神経系の疾患と薬」・「循環器系、血液・造血器系の疾患と薬」・「感染症と薬」・「呼吸器・消化器系の疾患と薬」
	処方解析演習 I B		
★	処方解析演習 II A	「神経系の疾患と薬」・「循環器系、血液・造血器系の疾患と薬」・「感染症と薬」・「呼吸器・消化器系の疾患と薬」の成績により推奨科目決定	「泌尿器系・生殖器系・感覚器・皮膚の疾患と薬」・「免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬」・「代謝系・内分泌系の疾患と薬」
	処方解析演習 II B		
★	処方解析演習 III A	「泌尿器系・生殖器系・感覚器・皮膚の疾患と薬」・「免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬」・「代謝系・内分泌系の疾患と薬」の成績により推奨科目決定	「がんと薬」
	処方解析演習 III B		

以上に示した選択必修科目のうち、1年次前期開講科目についてはオリエンテーション直後のPlacement Testの成績により受講科目を指定する。

1年次後期以降の開講科目については科目の指定は行わないが、各科目に該当する既修得科目成績を元に、履修基準を示す。

備考欄の★は、選択科目受講者選択の際に使用予定の科目（希望順位算定の方法については別途指示）

新潟薬科大学薬学部進級基準

この基準は、新潟薬科大学薬学部授業科目履修規程(以下「履修規程」という。)第10条の規定に基づき、進級のために修得しなければならない単位等進級に必要な要件について定める。

- 履修規程別表第1が適用される者は、以下の(1)から(4)の要件を満たさなければ次学年に進級できない。ただし、複数年次をまたいで履修する科目は、最終履修年次で成績評価を行うため、履修中の年次の進級判定基準の対象に含めない。

- 当該年次までの必修科目（実習・演習科目を除く）の未修得単位数の合計が下表の単位数を超えないこと。

年 次	1年次	2年次	3年次
未修得単位数	8	8	8

- 当該年次の実習・演習科目を、全て修得していること。

- 2年次から3年次に進級するには、以下の要件を全て満たすこと。

- 当該年次までの必修科目（実習・演習科目を除く）の未修得単位数の合計が(1)の表の単位数を超えないこと。

- 当該年次の実習・演習科目を、全て修得していること。

- 選択科目の教養科目のうち、外国語科目、人文社会系科目、自然科学系科目をそれぞれ1単位以上修得していること。

- 4年次から5年次に進級するには、以下の要件を全て満たすこと。

- 1～4年次の必修科目を全て修得していること。

- 選択科目の教養科目のうち、外国語科目、人文社会系科目、自然科学系科目をそれぞれ1単位以上含み合計4.5単位以上修得していること。

- 選択科目の専門科目のうち、基礎薬学系科目及び専門医療薬学系科目をそれぞれ2単位以上修得していること。

- 薬学共用試験に合格していること。

- 履修規程別表第2が適用される者は、以下の(1)から(3)の要件を満たさなければ次学年に進級できない。ただし、複数年次をまたいで履修する科目

は、最終履修年次で成績評価を行うため、履修中の年次の進級判定基準の対象に含めない。

- 当該年次までの必修科目（実習・演習科目を除く）の未修得単位数の合計が下表の単位数を超えないこと。

年 次	1年次	2年次	3年次
未修得単位数	8	7	9

- 当該年次の実習・演習科目を、全て修得していること。

- 4年次から5年次に進級するには、以下の要件を全て満たすこと。

- 1～4年次の必修科目を全て修得していること。

- 選択科目の教養科目のうち、外国語科目、人文社会系科目、自然科学系科目をそれぞれ1単位以上含み合計4.5単位以上修得していること。

- 選択科目の専門科目のうち、基礎薬学系科目及び専門医療薬学系科目をそれぞれ2単位以上修得していること。

- 薬学共用試験に合格していること。

- 履修規程別表第3が適用される者は、以下の(1)から(3)の要件を満たさなければ次学年に進級できない。ただし、複数年次をまたいで履修する科目は、最終履修年次で成績評価を行うため、履修中の年次の進級判定基準の対象に含めない。

- 当該年次までの必修科目（実習・実技・演習科目を除く）の未修得単位数の合計が下表の単位数を超えないこと。

年 次	1年次	2年次	3年次
未修得単位数	7	7	9

- 当該年次の実習・実技・演習科目を、全て修得していること。

- 4年次から5年次に進級するには、以下の要件を全て満たすこと。

- 1～4年次の必修科目を全て修得していること。

- 選択科目の教養科目のうち、外国語科目、人文社会系科目、自然科学系科目をそれぞれ1単位以上含み合計4.5単位以上修得していること。

- 選択科目の専門科目のうち、基礎薬学系科目及び専門医療薬学系科目をそれぞれ2単位以上修得していること。

(エ) 薬学共用試験に合格していること。

4. 履修規程別表第4が適用される者は、以下の(1)から(3)の要件を満たさなければ次学年に進級できない。ただし、複数年次をまたいで履修する科目は、最終履修年次で成績評価を行うため、履修中の年次の進級判定基準の対象に含めない。

(1) 当該年次までの必修科目（実習・実技・（実習扱いの）演習科目を除く）及び選択必修科目の未修得単位数の合計が下表の単位数を超えないこと。

年次	1年次	2年次	3年次	5年次
未修得単位数	8	8	8	1

(2) 当該年次の実習・実技・（実習扱いの）演習科目を、全て修得していること。

(3) 4年次から5年次に進級するには、以下の要件を全て満たすこと。

(ア) 1～4年次の必修科目を全て修得していること。

(イ) 1～4年次の選択必修科目の全てのグループにおいて1科目ずつ修得していること。

(ウ) 選択科目の教養科目のうち、2単位以上修得していること。

(エ) 薬学共用試験に合格していること。

附 則

この基準は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、令和7年4月1日から施行する。

新潟薬科大学薬学部受験心得

この心得は、新潟薬科大学薬学部授業科目履修規程第6条の規定に基づき、受験に際し受験生が順守すべき事項について定める。

(試験における順守事項)

- 1 受験生は下記の事項を順守しなければならない。
 - (1) 試験開始時刻までに指定された席に着席すること。ただし、遅刻者については試験開始時刻から30分以内に着席すれば受験を認める。
 - (2) 試験中は、筆記用具以外の携帯品は試験監督者が指示する場所に置くこと。
 - (3) 学生証を机上に置くこと。学生証又は仮学生証のない学生は受験できない。学生証を忘れた者は、試験開始前に仮学生証の交付を受けること。有効期限は1日で、再交付はしない。
 - (4) 試験開始時刻から30分間及び終了時刻前の5分間は退席しないこと。
 - (5) 前第1号から第4号にかかわらず、特別に定める事項がある場合には、それに従うこと。
 - (6) その他試験場内においては試験監督者の指示に従うこと。
 - (7) 試験中に不正とみなされる行為（以下「不正行為等」という。）をしないこと。

(不正行為等)

- 2 前項第7号に規定する試験における不正行為等とは、以下の号に該当する行為をいう。
 - (1) 机上や見える位置に事前に書き込みをする、又はそれに類する物品を故意に配置し、それを閲覧する。
 - (2) 許可されていない物品を机上に置く、身につける又は使用する。
 - (3) 解答開始の指示の前に、問題を閲覧する又は解答を始める。
 - (4) 他人の学生証を提示する又は他人の氏名を解答用紙に記入する。
 - (5) 他の受験者と会話する又は解答を教える。
 - (6) 他の受験者の解答用紙等を見る又は解答を教わる。
 - (7) 解答用紙を提出する前に、問題用紙を場外へと持ち出す。
 - (8) 解答用紙を試験監督者に提出せずに、場外へと持ち出す。

- (9) 解答終了の指示があったにもかかわらず、解答を続ける。
- (10) 試験監督者等の制止にかかわらず、他人への迷惑行為を続ける。
- (11) その他、公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をする。

(処分)

- 3 前第1項第7号に規定する試験における不正行為があった場合、その試験が実施された学期中の実習科目を含む全ての科目（ただし、下表に挙げられた科目は除く）について零点扱いとし、当該学期中の追試験及び再試験の受験資格を与えない。

科目名
最新医療を学ぶ
社会貢献活動
社会貢献活動Ⅰ
社会貢献活動Ⅱ
地域におけるボランティア活動
地域住民の健康状態を知る
臨床実務直前演習
臨床実務実習
卒業研究

附 則

この心得は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この心得は、令和6年4月1日から施行する。

新潟薬科大学薬学部GPA制度及びCAP制に関する取扱要項

(趣旨)

- この要項は、新潟薬科大学薬学部におけるグレード・ポイント・アベレージ(成績平均値をいう。以下「GPA」という。)制度の運用に関し、必要な事項について定める。

(目的)

- GPA制度は、透明性の高い成績管理と履修指導、学生の責任のある履修行為の促進、学習意欲の向上を目的として実施する。

(配点)

- 新潟薬科大学薬学部授業科目履修規程(以下「履修規程」という。)第8条第2項に定める成績評価に与えられる数値グレード・ポイント(以下「GP」という。)は、次のとおりとする。

【令和5年度までの入学生に適用】

区分	評価	評点	GP	評価基準
合 格	S (秀)	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分達成し、特に優れている
	A (優)	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分達成し、優れている
	B (良)	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成している
	C (可)	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低限達成している
不合格	D (不可)	60点未満	0.0	授業科目の到達目標を達成していない
	*1 X (追欠)	欠		天災、疾病などやむを得ない事情により定期試験を欠席
	Y (欠)			試験を欠席
	Z (否)	否		出席回数不足により定期試験受験資格なし
	*2 G (放)	放		追再試験受験資格放棄
認 定	E (認)	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等で修得した科目を本学部の単位として認定

*1：令和6年度より適用する

*2：令和6年度より成績評価及び評価基準に用いない

【令和6年度以降の入学生に適用】

区分	評価	評点	GP	評価基準
合 格	S (秀)	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分達成し、特に優れている
	A (優)	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分達成し、優れている
	B (良)	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成している
	C (可)	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低限達成している

不 合 格	D (不可)	60点未満	0.0	授業科目の到達目標を達成していない
	X (追欠)	欠		天災、疾病などやむを得ない事情により定期試験を欠席
	Y (欠)			試験を欠席
	Z (否)	否		出席回数不足により定期試験受験資格なし
認 定	E (認)	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等で修得した科目を本学部の単位として認定

(算出方法)

- GPAの算出方法は、以下のとおりとする。

- GPAは、履修した授業科目の単位数にGPを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出する。

GPAの算出方法

秀の修得単位数×4.0+優の修得単位数×3.0+良の修得単位数×2.0+可の修得単位数×1.0

総履修登録単位数

- GPAは、小数第4位を四捨五入し、小数第3位までの数値とする。

(対象授業科目)

- GPAの対象科目は、履修登録したすべての授業科目とする。ただし、次に掲げる科目は、GPAの対象科目から除外する。

- 新潟薬科大学学則第40条、41条及び42条により、本学の授業科目の履修により修得したものとして単位認定された科目
- 履修登録取消期間に、学生から別に定める履修取消申請書により申請があった科目
- 履修取消期間を経過した後、休学、病欠欠席等のやむを得ない事由で、学生から履修取消申請書により申請があった科目で、薬学部教務委員会が許可した科目

(学修指導)

- 薬学部長はGPAによる成績分布状況を把握し、年間GPAが1.0以下の学生に対し学修指導を行う。

(退学勧告)

- 2年連続で年間GPAが1.0以下の場合、学長は当該学生に退学勧告を行うことができるものとする。

(CAP制)

- CAP制は、単位制度を実質化し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的と

するもので、次に掲げる方法で運用する。

- (1) 履修規程第2条の2に基づき、各年度の履修登録単位数の上限を49単位とする。

(CAP制から除外する科目)

- 9 CAP制には、次に掲げる授業科目は含まないものとする。

- (1) 5の(2)(3)に掲げる科目
- (2) 4年次後期、6年次前期における臨床実務実習
- (3) 4年次、5年次における卒業研究

(その他)

- 10 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

(改廃)

- 11 この要項の改廃は、薬学部教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この要項は、平成27年7月13日から施行する。

附 則

この要項は、令和元年9月9日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和6年12月2日から施行し、令和6年4月1日から適用する。(第3項の変更)

資 料

ディプロマ・ポリシー (DP)	
1. プロフェッショナルリズム	DP① 患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、薬剤師として医療を担うための責任感と倫理観をもって行動できる。
	DP② 自らの能力を評価・検証し、生涯学習により常に自己研鑽を図ることができる。
	DP③ 後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
2. コミュニケーション能力	DP④ 他者との間で適切に情報の収集・伝達を行うとともに、互いの立場を尊重し、理解し合える人間関係を構築できる。
3. 薬学関連領域の知識・技能・態度	DP⑤ 普遍的な教養を身に付けるとともに、薬学の専門的知識・技能・態度を修得する。
4. 薬物療法における実践力	DP⑥ 患者の病態を理解し、科学的な根拠に基づき、患者個人を尊重した適切で効果的な薬物療法を選択・計画し、安全かつ適確に遂行できる。
5. 問題発見・解決力	DP⑦ 科学的探究心を備え、基礎、衛生、医療薬学に関わる諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
6. 地域の保健・医療における貢献力	DP⑧ 医療福祉連携の重要性を理解し、プライマリケアやセルフメディケーションの支援、在宅医療への参画等を通じ、地域における人々の疾病予防、健康・自立に貢献できる。

カリキュラム・マップ（別表第1適用者）

◎：DP達成に向けて、特に重要な事項

○：DP達成に向けて、重要な事項

（必修科目）

区分	授 業 科 目	単位数	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）							
			DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	DP⑦	DP⑧
教 養 科 目	英語Ⅰ	1				○	◎			
	英語Ⅱ	1				○	◎			
	英語Ⅲ	1				○	◎			
	英語Ⅳ	1				○	◎			
	英語Ⅴ	1				○	◎			
	英語Ⅵ	1				○	◎			
	基礎数学	2					◎			
	情報リテラシー基礎	2					◎		○	
	情報リテラシー応用	2					◎		○	
	物理学Ⅰ	1					◎	○		
専 門 科 目	物理学Ⅱ	1					◎	○		
	統計学	1.5					◎			
	薬学に親しむ	1		○			◎			
	フレッシュャーズセミナー	0.5	◎	◎		○			○	○
	くすりと科学Ⅰ	0.5					◎	○		
	くすりと科学Ⅱ	0.5					◎	○		
	薬学の基礎	1.5		○			◎	○	○	
	化学平衡Ⅰ	1					◎	○		
	化学平衡Ⅱ	1					◎	○		
	電磁波・放射線と物質の相互作用	1.5					◎	○		
専 門 科 目	物質のエネルギーと物理平衡	1.5					◎	○		
	物質の変化と反応速度	1.5					◎	○		
	分子の構造	2					◎	○		
	有機化学反応	2					◎	○		
	官能基の性質	2					◎	○		
	機器を用いる分析法	2					◎	○		
	化学物質の構造決定	1.5					◎	○		
	医薬品の定性定量分析	2					◎	○		
	生体分子のコアとパーツ	1.5					◎	○		
	薬用植物と生薬	1.5					◎	○		
専 門 科 目	生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5					◎	○		
	細胞の構造と機能Ⅰ	1					◎	○		
	細胞の構造と機能Ⅱ	1					◎	○		
	体の構造と機能	1.5					◎	○		

区分	授 業 科 目	単位数	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）							
			DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	DP⑦	DP⑧
専 門 科 目	感染症と微生物Ⅰ	1.5					◎	○		
	感染症と微生物Ⅱ	1.5					◎	○		
	生命情報と遺伝子	1.5					◎	○		
	タンパク質の構造と機能	1.5					◎	◎		
	生体防御と免疫	2					◎	○		
	生命活動と代謝	1					◎	○		
	物理化学演習	1					◎	○		
	基礎科学実習Ⅰ	0.5					◎	○		
	基礎科学実習Ⅱ	1					◎	○		
	基礎科学実習Ⅲ	1					◎	○		
専 門 科 目	薬品有機化学実習	1					◎	○		
	人体構造学実習	0.5					◎	○		
	微生物学実習	1					◎	○		
	医薬品分析実習	1					◎	○		
	生化学実習	1					◎	○		
	生薬化学実習	0.5					◎	○		
	疫学と保健・医療統計	1.5					◎	○		
	放射線の体への影響	0.5					◎	○		
	生活環境と健康	1.5					◎	○		
	栄養と健康	1					◎	○		
専 門 科 目	公衆の健康維持・増進	0.5					◎	○	○	○
	化学物質と毒性	1.5					◎	○		
	災害薬学	1	○	○		○	○	○	○	○
	環境衛生実習	1					◎	○		
	病態生理	1.5					○	◎		
	薬理・薬物治療の総論	1					◎	◎		
	薬理・病態・薬物治療Ⅰ	1.5					○	◎		
	症候と検査・疾患	1.5					◎	○		
	薬物動態と薬物間相互作用Ⅰ	1					◎	○		
	薬物動態と薬物間相互作用Ⅱ	1					◎	○		
専 門 科 目	薬理・病態・薬物治療Ⅱ	2					○	◎		
	薬理・病態・薬物治療Ⅲ	2					○	◎		
	製剤の科学	1.5					◎	○		
	製剤の形状と機能	1.5					○	◎		

区分	授 業 科 目	単 位 数	学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)							
			DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専 門 科 目	薬物動態パラメータと速度論解析Ⅰ	1					○	○		
	薬物動態パラメータと速度論解析Ⅱ	1					○	○		
	臨床研究デザインと生物統計	1.5					○	○		
	薬理・病態・薬物治療Ⅳ	2					○	○		
	薬理・病態・薬物治療Ⅴ	2					○	○		
	代表的な疾患における薬物治療の最適化	1.5					○	○		
	薬物治療に役立つ情報	1					○	○	○	
	患者の権利と法規範	0.5	○				○	○		
	医療人マインドと倫理観の醸成	1	○	○		○		○		
	薬害・医療事故被害者から学ぶ	0.5	○	○		○		○		
	薬剤師が備える倫理観	0.5	○	○		○		○	○	○
	多職種連携における薬剤師の役割	1	○			○		○	○	○
	社会保障制度と医療経済	1	○				○	○		
	薬事関連法規	1.5	○				○	○		
	地域医療における薬剤師	1	○				○		○	○
	セルフメディケーションと一般医薬品	1	○				○	○		○
	個別化医療と薬物治療モニタリング	1	○				○	○		
	循環器・血液・造血器疾患の薬物治療	1	○				○	○	○	
	神経・精神・筋・骨・泌尿器・生殖器疾患の薬物治療	1	○				○	○	○	
	代謝・内分泌・免疫・アレルギー疾患の薬物治療	1	○				○	○	○	
	呼吸器・消化器・皮膚・感覚器疾患と感染症の薬物治療	1	○				○	○	○	
	悪性腫瘍の薬物治療と緩和医療	1	○				○	○	○	
	先端医療	1					○	○	○	
	薬剤師と法律・制度	1.5	○				○	○		
	薬剤使用評価	1	○				○	○		○
	社会貢献活動	1	○			○				○
	コミュニケーションを学ぶ	0.5	○			○				○
	早期体験学習Ⅰ	1	○	○		○	○			○
	早期体験学習Ⅱ	1	○	○		○	○			○
	薬理・病態・薬物治療演習Ⅰ	1					○	○		
	薬理・病態・薬物治療演習Ⅱ	1					○	○		
	副作用学演習	0.5					○	○		
	身体所見実習	0.5					○	○		
	製剤学実習	0.5					○	○		
	薬理学実習	0.5					○	○		
	薬物動態実習	0.5					○	○		
	医薬品医療用具の供給と適正使用	1	○				○	○		
	患者応対と服薬指導	0.5	○			○	○	○		
	調剤学実習	1	○				○	○		
	臨床実務実習事前学習	7	○	○		○	○	○	○	○
	臨床実務直前演習	1	○	○		○	○	○	○	○
	臨床実務実習	20	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療現場で役立つ物理学・化学・生物学	1.5					○	○		
	医療現場で役立つ衛生薬学	1					○	○		
	医療現場で役立つ薬理学	1					○	○	○	
	医療現場で役立つ薬剤学	1					○	○		
総合科目	卒業研究	10		○	○	○	○		○	
	薬学総括演習Ⅰ	4		○			○	○		
	薬学総括演習Ⅱ	5		○			○	○		

(選択科目)

区分	授 業 科 目	単 位 数	学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)							
			DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
教 育 目 的	外国語科目	ドイツ語	2				○	○		
		中国語	2				○	○		
		ロシア語	2				○	○		
		ロシア語	2				○	○		
		学術英語	1				○	○		○
	人文社会科学科目	海外語学研修	1				○	○		○
		経済学	1					○		
		法学	1					○		
		社会心理学	1				○			
		マス・メディア論	1					○		
	習得科目	哲学	1	○				○		
		新潟の風土と歴史	1					○		
		新潟の食文化	1					○		
		文化人類学	1					○		
		スポーツ	1		○			○		
	自然科学系科目	植物学	1					○		
		昆虫と人のかかわり	1					○		
		大地の構造と地震	1					○		
		プログラミング基礎	2					○		○
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2	○			○	○		○
専 門 科 目	基礎薬学系科目	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2	○			○	○		○
		リード化合物の創製	1					○		
		目的化合物をつくる	1					○		
		医薬品の歴史	1					○		
		運動生理	1					○		
	専門医療薬学系科目	香粧品の科学	1					○	○	
		新薬の開発	1					○		
		食品の安全管理	2					○		
		医薬品の開発と治験	1					○	○	
		病気と栄養	1					○	○	
	専門医療薬学系科目	スポーツ薬学	1					○	○	
		遺伝情報の臨床応用	1					○	○	
		予防医療とプライマリケア	1					○	○	○
		科学技術の進歩と医療倫理	1	○				○	○	
		医薬ビッグデータ解析	0.5					○	○	○
目 的	専門医療薬学系科目	サプリメントと保健機能食品の科学	1					○	○	○
		多様化する福祉課題と地域共生社会	1	○				○		○
		臨床心理学	1				○	○		
		薬局の役割と経営	1	○				○		○
		アロマセラピー	1					○	○	
	専門医療薬学系科目	地域医療を学ぶ	1	○			○	○	○	○
		多職種連携	1	○	○		○	○	○	○
		新潟地域でよく見られる疾病	1					○		○
		海外医療事情を学ぶ	1		○		○	○		○
		実践薬学臨床実習	1.5	○	○	○	○	○	○	○

カリキュラム・マップ（別表第2適用者）

◎：DP達成に向けて、特に重要な事項

○：DP達成に向けて、重要な事項

（必修科目）

区分	授 業 科 目	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）							
		DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	DP⑦	DP⑧
教 育 科 目	外国語科目	英語Ⅰ			○	◎			
		英語Ⅱ			○	◎			
		英語Ⅲ			○	◎			
		英語Ⅳ			○	◎			
		英語Ⅴ			○	◎			
		英語Ⅵ			○	◎			
	自然科学系科目	基礎数学				◎			
		情報リテラシー基礎				◎		○	
		情報リテラシー応用				◎		○	
		物理学				◎	○		
		物理学				◎	○		
		統計学				◎			
		物理学演習				◎	○		
専 門 科 目	科目	スポーツⅠ		○		○			
		スポーツⅡ		○		○			
	入薬科目	薬学に親しむ		○		◎			
		フレッシュャーズセミナー	◎	◎	○			○	○
	合薬科目	くすりと科学Ⅰ				◎	○		
		くすりと科学Ⅱ				◎	○		
	基礎薬学	化学平衡				◎	○		
		電磁波・放射線と物質の相互作用				◎	○		
		物質のエネルギーと物理平衡				◎	○		
		物質の変化と反応速度				◎	○		
		分子の構造				◎	○		
		有機化学反応				◎	○		
		官能基の性質				◎	○		
		機器を用いる解析法				◎	○		
		化学物質の構造決定				◎	○		
		医薬品の定性定量分析				◎	○		
専 門 科 目	基礎薬学	生体分子のコアとパーツ				◎	○		
		薬用植物と生薬				◎	○		
		生薬と天然由来活性物質・漢方薬				◎	○		
		細胞の構造と機能				◎	○		
		体の構造と機能				◎	○		
		感染症と微生物Ⅰ				◎	○		
		感染症と微生物Ⅱ				◎	○		
		生命情報と遺伝子				◎	○		
		生体防御と免疫				◎	○		
		栄養の摂取と代謝				◎	○		
専 門 科 目	基礎薬学	生体の情報伝達				◎	○		
		物理化学演習				◎	○		
		有機化学演習Ⅰ				◎	○		
		有機化学演習Ⅱ				◎	○		
		生物化学演習Ⅰ				◎	○		
		生物化学演習Ⅱ				◎	○		
		分析化学演習				◎	○		
		基礎科学実習Ⅰ				◎	○		
		基礎科学実習Ⅱ				◎	○		
		基礎科学実習Ⅲ				◎	○		
専 門 科 目	基礎薬学	基礎科学実習Ⅳ				◎	○		
		薬品有機化学実習				◎	○		
		人体構造学実習				◎	○		
		微生物学実習				◎	○		
		医薬品分析実習				◎	○		
		生化学実習				◎	○		
		生薬化学実習				◎	○		

区分	授 業 科 目	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）							
		DP①	DP②	DP③	DP④	DP⑤	DP⑥	DP⑦	DP⑧
専 門 科 目	衛生薬学科目	疫学と保健・医療統計				◎	○		
		生活環境と健康				◎	○		
		化学物質と毒性				◎	○		
		災害薬学	○	○		○	○	○	○
		環境衛生実習				◎	○		
		病態生理				○	◎		
	医療薬学	薬理作用と薬物治療の基礎				◎	○		
		症候と検査・疾患				◎	○		
		薬物動態と薬物間相互作用				◎	○		
		循環器系、血液・造血系の疾患と薬				○	◎		
		神経系の疾患と薬				○	◎		
		感染症と薬				○	◎		
		呼吸器系・消化器系の疾患と薬				○	◎		
		製剤の科学				◎	○		
		製剤の形状と機能				○	◎		
		薬物動態パラメータと速度論解析				○	◎		
		臨床研究デザインと生物統計				◎	○		
		腎泌尿生殖器系・感覚器・皮膚の疾患と薬				○	◎		
		免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬				○	◎		
		代謝系・内分泌系、骨・関節の疾患と薬				○	◎		
		がん薬				○	◎		
専 門 科 目	医療薬学	代表的な疾患における薬物治療の最適化				○	◎		
		薬物治療に役立つ情報				○	◎	○	
		最新医療を学ぶ		○		○	◎		
		患者の権利と法規範	◎			○	○		
		医療人マインドと倫理観の醸成	◎	○		○	○		
		薬害・医療事故被害者から学ぶ	◎	○		○	○		
		薬剤師が備える倫理観	◎	○		○	○	○	
		多職種間連携における薬剤師の役割	○			○	○	○	
		社会保障制度と医療経済	○			◎	○		
		薬事関連法規	○			◎	○		
専 門 科 目	医療薬学	地域医療における薬剤師				◎	○	○	○
		セルフメディケーションと一般医薬品	○			◎	○	○	○
		個別化医療と薬物治療モニタリング				○	◎		
		新潟地域でよく見られる疾病				○			○
		感染の制御と薬物治療	○			○	◎	○	
		循環器系疾患の薬物治療	○			○	◎	○	
		精神・神経系疾患の薬物治療	○			○	◎	○	
		呼吸器系疾患の薬物治療	○			○	◎	○	
		消化器系疾患、腎疾患の薬物治療	○			○	◎	○	
		内分泌系疾患の薬物治療	○			○	◎	○	
専 門 科 目	医療薬学	免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の薬物治療	○			○	◎	○	
		悪性腫瘍の薬物治療	○			○	◎	○	
		緩和医療における薬物治療	○			○	◎	○	
		先端医療				○	◎	○	
		薬剤師と法律・制度	○			◎	○		
		薬剤使用評価	○			○	◎		○
		社会貢献活動Ⅰ	○			◎			○
		社会貢献活動Ⅱ	○	○	○			○	◎
		コミュニケーションを学ぶ	○			◎			○
		早期体験学習Ⅰ	◎	○		○			○
専 門 科 目	医療薬学	早期体験学習Ⅱ	◎	○		○			○
		薬理・病態・薬物治療演習Ⅰ				○	◎		
		薬理・病態・薬物治療演習Ⅱ				○	◎		
		副作用学演習				○	◎		
		身体所見実習				○	◎		
		製剤学実習				○	◎		
		薬理・薬物動態実習				○	◎		

区分	授 業 科 目	学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)							
		DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専 門 学 科 目	医薬品医療用具の供給と適正使用	○				○	◎		
	患者応対と服薬指導	○			◎	○	◎		
	調剤学実習	○				○	◎		
	臨床実務実習事前学習Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○
	臨床実務実習事前学習Ⅱ	○	○		○	○	○	○	○
	臨床実務直前演習	○	○		○	○	○	○	○
	臨床実務実習	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療現場で役立つ物理学					◎	○	○	
	医療現場で役立つ化学					◎	○	○	
	医療現場で役立つ生物学					◎	○	○	
	医療現場で役立つ衛生薬学					◎	○	○	
	医療現場で役立つ薬理学					○	◎	○	
	医療現場で役立つ薬剤学					◎	○		
	総合科目								
総合科目	卒業研究		○	○	○	○		◎	
	薬学総括演習Ⅰ		○			◎	○	○	
	薬学総括演習Ⅱ		○			◎	○	○	

(選択科目)

区分	授 業 科 目	学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)							
		DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
教 養 科 目	外国語科目	ドイツ語			○	◎			
		中国語			○	◎			
		コリア語			○	◎			
		ロシア語			○	◎			
		学術英語			○	◎		○	
		海外語学研修			○	◎		○	
		薬学英語Ⅰ				◎		○	
		薬学英語Ⅱ			○	◎			
		薬学英語Ⅲ				◎		○	
		経済学				◎			
	人文社会科学科目	法学				◎			
		社会心理学			○	◎			
		マス・メディア論				◎			
		哲学	○			◎			
		新潟の風土と歴史				◎			
		新潟の食文化				◎			
		文化人類学				◎			
		スポーツ		○		○			
	自然科学科目	化学概論Ⅰ				◎	○		
		化学概論Ⅱ				◎	○		
		生物概論Ⅰ				◎	○		
		生物概論Ⅱ				◎	○		
		植物学				◎			
		気象学				◎			
		昆虫と人のかかわり				◎			
		大地の構造と地震				◎			
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	○			○	○		○
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	○			○	○		○
専 門 科 目	基礎薬学系科目	リード化合物の創製				◎			
		目的化合物をつくる				◎			
		医薬品の歴史				◎			
		運動生理				◎			
		香粧品の科学				◎	○		
		新薬の開発				◎			
		食品の安全管理				◎			
		医薬品の開発と治験				◎	○		
		病気と栄養				○	◎		
		スポーツ薬学				○	◎		
	専門医療薬学系科目	遺伝情報の臨床応用				◎	○		
		予防医療とプライマリケア				◎	○		○
		科学技術の進歩と医療倫理	◎			○	○		
		サプリメントと保健機能食品の科学				◎	○		○
		多様化する福祉課題と地域共生社会	○			◎			○
		臨床心理学				○	◎		
		薬局の役割と経営	○				◎		○
		アロマセラピー					◎	○	
		地域医療を学ぶ	○			○	◎	○	○
		多職種連携Ⅰ	○	○		○	◎	○	○
		多職種連携Ⅱ	○	○		○	◎	○	○
		海外医療事情を学ぶ		○		○	○		○

カリキュラム・マップ（別表第3適用者）

◎：DP達成に向けて、特に重要な事項

○：DP達成に向けて、重要な事項

（必修科目）

区分	授 業 科 目	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）							
		DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
教 育 科 目	英語Ⅰ				○	◎			
	英語Ⅱ				○	◎			
	英語Ⅲ				○	◎			
	英語Ⅳ				○	◎			
	英語Ⅴ				○	◎			
	英語Ⅵ				○	◎			
自然 科学 系 科 目	微分積分					◎			
	情報リテラシ				◎			○	
	物理学				◎		○		
	統計学				◎				
	数学演習				◎				
	物理学演習				◎		○		
	化学演習				◎		○		
	生物学演習				◎		○		
	スポーツⅠ		○			○			
	スポーツⅡ		○			○			
入 学 科 目	薬学に親しむ		○		◎				
	フレッシュャーズセミナー	◎	◎		○			○	○
合 科 目	くすりと科学Ⅰ				◎	○			
	くすりと科学Ⅱ				◎	○			
専 門 科 学 科 目	化学平衡				◎	○			
	電磁波・放射線と物質の相互作用				◎	○			
	物質のエネルギーと物理平衡				◎	○			
	物質の変化と反応速度				◎	○			
	分子の構造				◎	○			
	有機化学反応				◎	○			
	官能基の性質				◎	○			
	機器を用いる解析法				◎	○			
	化学物質の構造決定				◎	○			
	医薬品の定性定量分析				◎	○			
	生体分子のコアとパーツ				◎	○			
	薬用植物と生薬				◎	○			
	生薬と天然由来活性物質・漢方薬				◎	○			
	細胞の構造と機能				◎	○			
	体の構造と機能				◎	○			
	感染症と微生物Ⅰ				◎	○			
	感染症と微生物Ⅱ				◎	○			
	生命情報と遺伝子				◎	○			
	生体防御と免疫				◎	○			
	栄養の摂取と代謝				◎	○			
	生体の情報伝達				◎	○			
	物理化学演習				◎	○			
	有機化学演習Ⅰ				◎	○			
	有機化学演習Ⅱ				◎	○			
	生物化学演習Ⅰ				◎	○			
	生物化学演習Ⅱ				◎	○			
	分析化学演習				◎	○			
	基礎科学実習Ⅰ				◎	○			
	基礎科学実習Ⅱ				◎	○			
	基礎科学実習Ⅲ				◎	○			
	基礎科学実習Ⅳ				◎	○			
	薬品有機化学実習				◎	○			
	人体構造学実習				◎	○			
	微生物学実習				◎	○			
	医薬品分析実習				◎	○			
	生化学実習				◎	○			
	生薬化学実習				◎	○			

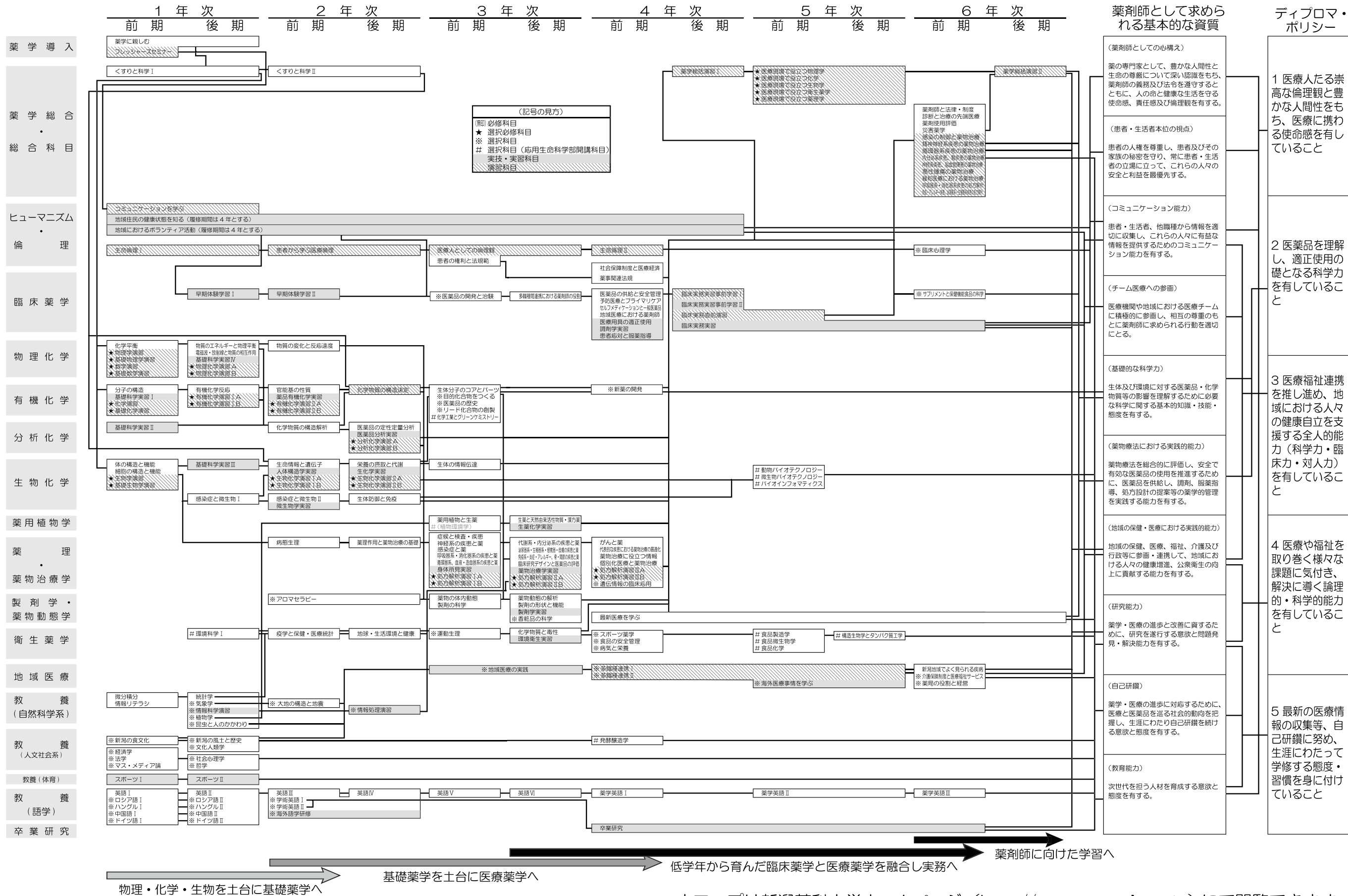
区分	授 業 科 目	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）							
		DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
衛生薬学科目	疫学と保健・医療統計					◎	○		
	生活環境と健康					◎	○		
	化学物質と毒性					◎	○		
	災害薬学	○	○		○	○	○	○	○
	環境衛生実習					◎	○		
	病態生理					○	◎		
専 門 科 学 科 目	薬理作用と薬物治療の基礎					◎	◎		
	症候と検査・疾患					◎	○		
	薬物動態と薬物間相互作用					◎	○		
	循環器系、血液・造血器系の疾患と薬					○	◎		
	神経系の疾患と薬					○	◎		
	感染症と薬					○	◎		
	呼吸器系・消化器系の疾患と薬					○	◎		
	製剤の科学					◎	○		
	製剤の形状と機能					○	◎		
	薬物動態パラメータと速度論解析					○	◎		
	臨床研究デザインと生物統計					◎	○		
	腎泌尿生殖器系・感覚器・皮膚の疾患と薬					○	◎		
	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬					○	◎		
	代謝系・内分泌系、骨・関節の疾患と薬					○	◎		
	がん薬					○	◎		
	代表的な疾患における薬物治療の最適化					○	◎		
	薬物治療に役立つ情報					○	◎	○	
	最新医療を学ぶ		○			○	◎		
	患者の権利と法規範	◎				○	○		
	医療人マインドと倫理観の醸成	◎	○		○		○		
	薬害・医療事故被害者から学ぶ	◎	○		○		○		
	薬剤師が備える倫理観	◎	○		○		○	○	○
	多職種間連携における薬剤師の役割	○			○		○	○	○
	社会保障制度と医療経済	○				◎	○		
	薬事関連法規	○				◎	○		
	地域医療における薬剤師	○				◎		○	○
	セルフメディケーションと一般医薬品	○				◎	○		○
	個別化医療と薬物治療モニタリング					○	◎		
	新潟地域でよく見られる疾病					○			○
	感染の制御と薬物治療	○				○	◎	○	
	循環器系疾患の薬物治療	○				○	◎	○	
	精神・神経系疾患の薬物治療	○				○	◎	○	
	呼吸器系疾患の薬物治療	○				○	◎	○	
	消化器系疾患、腎疾患の薬物治療	○				○	◎	○	
	内分泌系疾患の薬物治療	○				○	◎	○	
	免疫・アレルギー疾患、泌尿器系・生殖器系疾患の薬物治療	○				○	◎	○	
	悪性腫瘍の薬物治療	○				○	◎	○	
	緩和医療における薬物治療	○				○	◎	○	
	先端医療					○	◎	○	
	薬剤師と法律・制度	○				◎	○		
	薬剤使用評価	○				○	◎		○
	社会貢献活動Ⅰ	○			◎				○
	社会貢献活動Ⅱ	○	○	○				○	◎
	コミュニケーションを学ぶ	○			◎				○
	早期体験学習Ⅰ	◎	○		○	○			○
	早期体験学習Ⅱ	◎	○		○	○			○
	薬理・病態・薬物治療演習Ⅰ					○	◎		
	薬理・病態・薬物治療演習Ⅱ					○	◎		
	副作用学演習					○	◎		
	身体所見実習					○	◎		
	製剤学実習					○	◎		

区分	授 業 科 目	学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)							
		DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
専 門 科 目	薬理・薬物動態実習					○	◎		
	医薬品医療用具の供給と適正使用	○				○	◎		
	患者応対と服薬指導	○			◎	○	◎		
	調剤学実習	○				○	◎		
	臨床実務実習事前学習Ⅰ	○	○		○	○	○	○	○
	臨床実務実習事前学習Ⅱ	○	○		○	○	○	○	○
	臨床実務直前演習	○	○		○	○	○	○	○
	臨床実務実習	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療現場で役立つ物理学					◎	○	○	
	医療現場で役立つ化学					◎	○	○	
	医療現場で役立つ生物学					◎	○	○	
	医療現場で役立つ衛生薬学					◎	○	○	
	医療現場で役立つ薬理学					○	◎	○	
	医療現場で役立つ薬剤学					◎	○		
	総合科目								
	卒業研究		○	○	○	○		◎	
	薬学総括演習Ⅰ		○			◎	○	○	
	薬学総括演習Ⅱ		○			◎	○	○	

(選択科目)

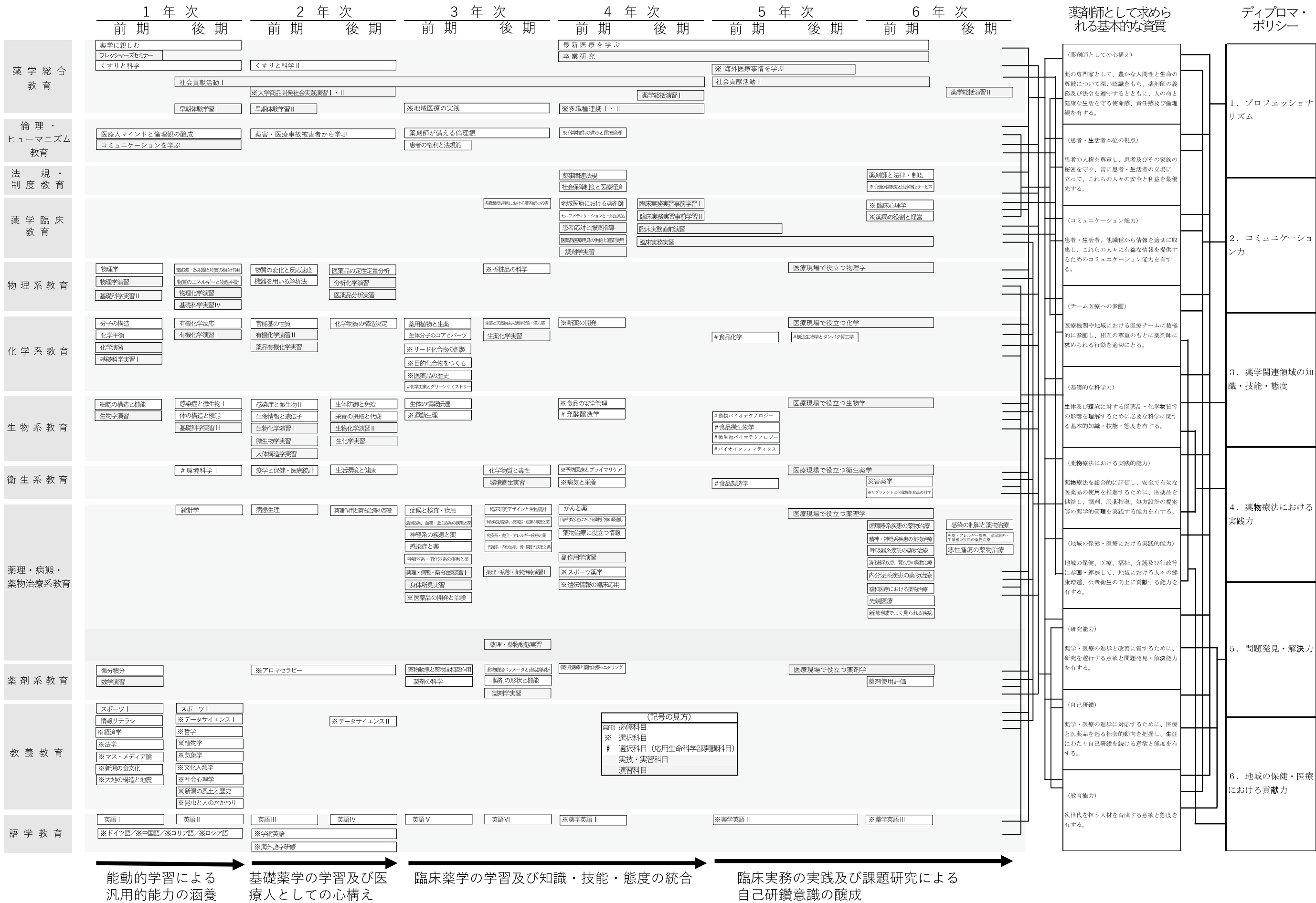
区分	授 業 科 目	学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)							
		DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
教 養 科 目	外国語科目								
	ドイツ語				○	◎			
	中国語				○	◎			
	コリア語				○	◎			
	ロシア語				○	◎			
	学術英語				○	◎		○	
	海外語学研修				○	◎		○	
	薬学英語Ⅰ					◎		○	
	薬学英語Ⅱ				○	◎			
	薬学英語Ⅲ					◎		○	
	人文社会科目								
	経済学					◎			
	法学					◎			
	社会心理学				○	◎			
	マス・メディア論					◎			
	哲学	○				◎			
専 門 科 目	自然科学科目								
	新潟の風土と歴史					◎			
	新潟の食文化					◎			
	文化人類学					◎			
	植物学					◎			
	気象学					◎			
	昆虫と人のかかわり					◎			
	大地の構造と地震					◎			
	データサイエンスⅠ					◎			
	データサイエンスⅡ					◎		○	
	大学商品開発社会実践演習Ⅰ	○			○	○		○	○
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	○			○	○		○	○
	基礎薬学系科目								
	リード化合物の創製					◎			
	目的化合物をつくる					◎			
	医薬品の歴史					◎			
専 門 科 目	運動生理					◎			
	香粧品の科学					◎	○		
	新薬の開発					◎			
	食品の安全管理					◎			
	医薬品の開発と治験					◎	○		
	病気と栄養					○	◎		
	スポーツ薬学					○	◎		
	遺伝情報の臨床応用					◎	○		
	予防医療とプライマリケア					◎	○		○
	科学技術の進歩と医療倫理	◎				○	○		
	サプリメントと保健機能食品の科学					◎	○		○
	介護保険制度と医療福祉サービス	○				◎			○
	臨床心理学				○	◎			
	薬局の役割と経営	○				◎			○
	アロマセラピー					◎	○		
	応用生命科学学部開講科目								
	地域医療の実践	○			○	○	◎	○	○
	多職種連携Ⅰ	○	○		○	○	◎	○	○
	多職種連携Ⅱ	○	○		○	○	◎	○	○
	海外医療事情を学ぶ		○		○	○		○	
	#環境科学Ⅰ					◎			
	#化学工業とグリーンケミストリー					◎			
	#発酵醸造学					◎			
	#食品製造学					◎			
	#動物バイオテクノロジー					◎			
	#食品微生物学					◎			
	#微生物バイオテクノロジー					◎			
	#食品化学					◎			
	#バイオインフォマティクス					◎			
	#構造生物学とタンパク質工学					◎			

カリキュラムマップ (2017年度から2020年度までの1年次入学生及び2年次に編入学等を行った学生に適用)

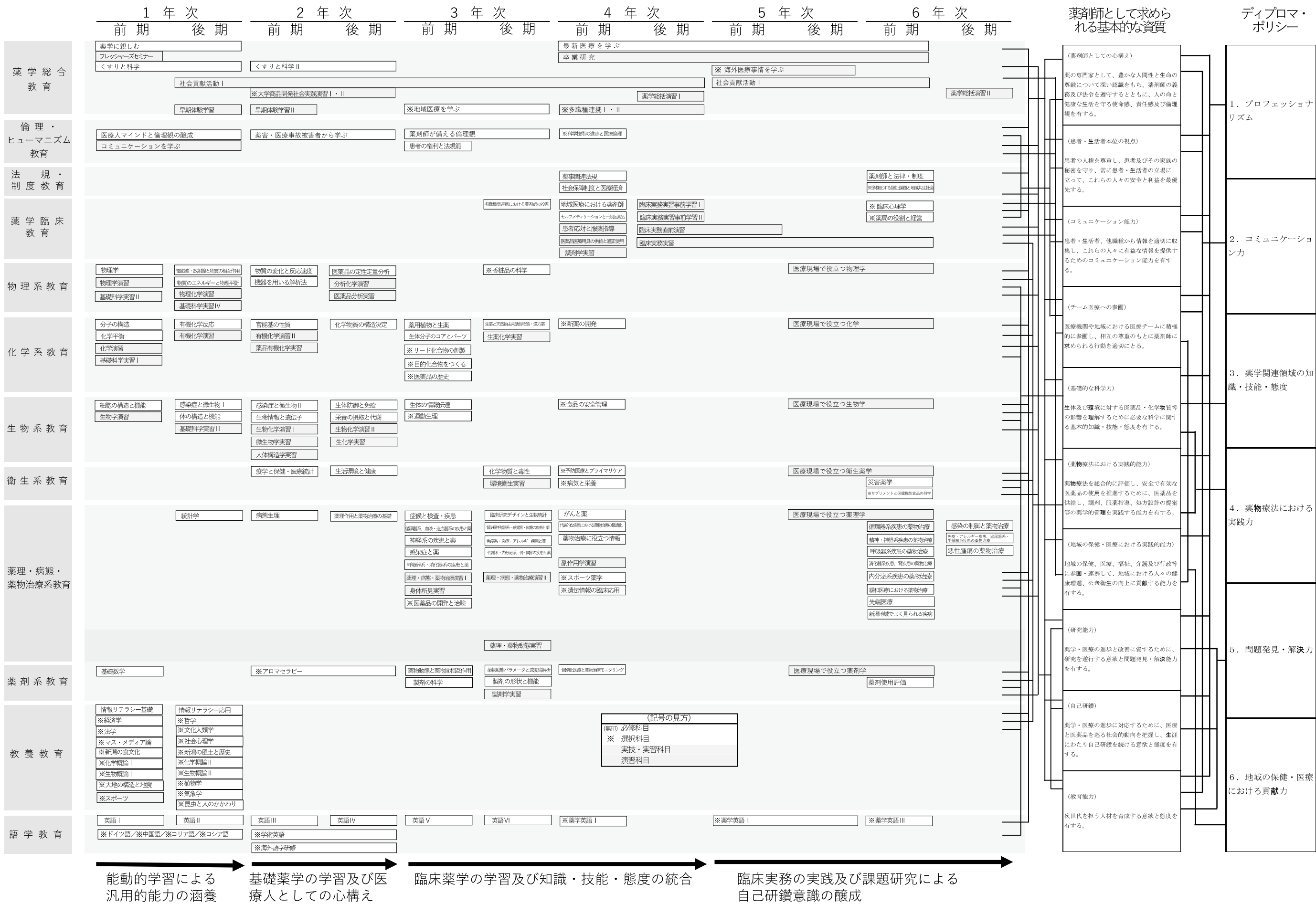


本マップは新潟薬科大学ホームページ (<http://www.nupals.ac.jp>) にて閲覧できます

カリキュラムツリー（２０２１年度以降の１年次入学生及び２０２２年度以降の２年次編入学等を行った学生に適用）



カリキュラムツリー（２０２３年度以降の１年次入学生及び２０２４年度の２年次に編入学等を行った学生に適用）



カリキュラムツリー（2024年度以降の1年次入学生及び2025年度の2年次に編入学等を行った学生に適用）

